2022年度シラバス

科目名:英語コミュニケーションⅢ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This is related to the ability to communicate in English. The main aim of this course is to help students develop the skills and knowledge to engage in discussions on various topics with their classmates and teacher. The students will discuss a variety of issues and use conversational strategies to express their opinions. 【AL】【EN】

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to 1. have confidence and competency in listening and speaking to others.2. discuss topics and use conversational strategies to maintain conversation. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring an English/Japanese dictionary to class. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Attitude and Class Participation 30% Homework 30% Review Test 40%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Akiko Nitta (2018) A Shorter Course in English for Business Communication (南雲堂)	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. (Office Hour: Thursday lunch time)

01	Course introduction
02	Lesson 1. Stating the Purpose of a Contact: Conversation
03	Lesson 1. Stating the Purpose of a Contact: Exercises
04	Lesson 2. Meeting for the First Time: Conversation
05	Lesson 2. Meeting for the First Time: Exercises
06	Lesson 3. Presenting a Business Card: Conversation
07	Lesson 3. Presenting a Business Card: Exercises
08	Review Test (Lesson 1~3)
09	Lesson 4. Transferring a Call: Conversation
10	Lesson 4. Transferring a Call: Exercises
11	Lesson 5. Phone Troubles: Conversation
12	Lesson 5. Phone Troubles: Exercises
13	Lesson 6. At the Airport Abroad: Conversation
14	Lesson 6. At the Airport Abroad: Exercises
15	Review Test (Lesson 4~6)
16	None

2022年度シラバス

科目名:英語コミュニケーションIV	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This is related to the ability to communicate in English. The main aim of this course is to help students develop the skills and knowledge to engage in discussions on various topics with their classmates and teacher. The students will discuss a variety of issues and use conversational strategies to express their opinions. 【AL】【EN】

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to1. have confidence and competency in listening and speaking to others.2. discuss topics and use conversational strategies to maintain conversation. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring an English/Japanese dictionary to class. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Attitude and Class Participation 30% Homework 30% Review Tests 40%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Akiko Nitta (2018) A Shorter Course in English for Business Communication	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. (Office Hour: Thursday lunch time)

01	Course introduction
02	Lesson 7. Making Polite Requests: Conversation
03	Lesson 7. Making Polite Requests: Exercises
04	Lesson 8. Taking and Leaving Telephone Messages: Conversation
05	Lesson 8. Taking and Leaving Telephone Messages: Exercises
06	Lesson 9. Making Inquiries: Conversation
07	Lesson 9. Making Inquiries: Exercises
08	Review Test (Lesson 7~9)
09	Lesson 10. Making Appointments 1: Conversation
10	Lesson 10. Making Appointments 1: Exercises
11	Lesson 11. Stating Requests Clearly: Conversation
12	Lesson 11. Stating Requests Clearly: Exercises
13	Lesson 12. Making Apologies: Conversation
14	Lesson 12. Making Apologies: Exercises
15	Review Test (Lesson 10~12)
16	None

科目名:ＮＧＯ・ＮＰＯ論	担当者:古藪 真紀子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
なぜNGOは存在するのか。開発援助の背景とともに、NGO・NPOの種類、役割、活動などの概要や、NGO・NPOによる国際協力の在り方を理解し、国際理解・異文化理解を深める。世界や国内の様々な事例を取り上げ、自ら解決すべき社会課題を明確にする事で、批判的・論理的思考力、課題探求力、コミュニケーション能力を育成する【DP】。また、学生のキャリアパスの選択肢の一つとして、NGO・NPOで働くとはどういうことか考えるとともに、もし自分がNGO・NPOの職員だったらどのような活動をすることになるのか、「具体的なイメージ」を構築する。また、参加型ワークショップを通して、NGO・NPOの設立を疑似体験する【AL】。
特定の教科書は使用せず、プリントや視聴覚教材を使って、NGO・NPOの活動などについて、具体的なイメージを持てるようにする。一方的な講義スタイルではなく、常に受講生の意見を求め、ディスカッションの場を持つ。後半のワークショップは、参加型学習・グループ活動のスタイルで実施するため、受講生の積極的な参加が期待される。また、受講生には、講義毎にコメントシートを提出してもらう。

授業の到達目標
・NGO・NPOの組織・役割・活動・課題について理解する。
・NGO・NPOによる開発援助や支援活動の在り方を理解する。
・上記の知識と体験型ワークショップを通して、自ら考え表現する力と国際問題を判断する力をみにつける。
・問題分析や目的分析などのツールを使って、様々な課題に対しての活動や解決策を、自ら考え、表現できるようになる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
前半は各回のテーマに沿った具体的な事例について事前に調べレポートで提出する（5時間）。後半のワークショップでは、グループでの最終発表に向けて、事前に情報を収集する（2時間）。

評価方法
レポート（30%）、ワークショップ発表など講義内課題(40%)、講義ごと提出のコメントシート（30%）
講義内課題については、次回の授業日で、解説する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段に関しては、最初の授業で案内する。

01	NGO・NPOとは何か（１）
02	NGO・NPOとは何か（２）
03	開発援助とNGO：SDGsとわたし（１）
04	開発援助とNGO：SDGsとわたし（２）
05	NGOの活動（１）：貧困とは何か
06	NGOの活動（２）：貧困とは何か
07	NGOの活動（３）：教育・福祉
08	NGOの活動（４）：ジェンダー・多文化共生
09	NGOの活動（５）：紛争・災害
10	NGOの活動（６）：環境
11	ワークショップ：NGOを作ってみよう（１）
12	ワークショップ：NGOを作ってみよう（２）
13	ワークショップ：NGOを作ってみよう（３）
14	プレゼンテーション(１)
15	プレゼンテーション(２)、まとめ プレゼンテーション(２)、まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:現代社会と企業	担当者:塚本 高浩	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:なし		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義は、「社会人基礎力」を自ら育み、桜花学園大学の建学の精神である社会の発展に寄与する「信念のある女性」としての基礎を培うための科目群に位置づけられている。私たちの社会は、企業の存在が不可欠である。そこで、現代社会における私たち個人と企業の関係について学び、社会人基礎力の養成を目指す。本講義では、4回程度のレポート課題を実施する。

授業の到達目標
わたしたちが住んでいる地域には様々な種類の産業が存在し，それらが互いに投入産出構造などを通じて関連しあっていることを理解する。また、就職し「社会人」になるということは、「組織人」として行動することが求められることであるということを理解することができる。その上で、個人ではできないことをやりとげるためにつくられた「協働システム」としての組織のあり方や個人との関わり方について、自らの考えをもつことができるようになる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業の進行に合わせて具体的な事例を自分で調べること、自分の考えを述べることが求められる。そのため、事前・事後を含めて4時間程度の授業外学修が必要である。

評価方法
4回程度のレポート(100%)
課題や質問に対するフィードバックは、次回講義の冒頭に実施する。

教科書 使用せず	参考図書 授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義時間外での質問は、メールですること。メールアドレスは、講義中に開示する。

01	働く目的と労働観
02	分業の利益
03	各国の文化と政治・経済体制
04	様々な統計情報
05	産業構造
06	我が国の諸課題
07	企業と経済
08	産業連関分析１
09	産業連関分析２
10	会社の種類
11	会社の組織・労使関係
12	企業の立地
13	集積の利益
14	税
15	まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:地域協力演習	担当者:根尾 文彦	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業においてはディプロマポリシーに沿って、修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を身につけることが望まれる。少子高齢社会の我が国が今後発展するためには「地域の活性化」が重要なテーマとなっている。本授業では地域の歴史、文化、伝統、生活様式などを学びながら、大学生としてどのように地域と交流し、いかに地域に貢献できるかをフィールドワーク実習を通して学修する。フィールドワークは時間的理由から正規授業時間外で実施する場合がある。
レポート作成2回、レポート発表2回。

授業の到達目標
①地域の重要性を理解して社会との関連性を理解している。（DP） ②有松の歴史、文化などを理解して、有松の活性化に向けた提案を行う。（DP）③自分の地元の歴史、文化、社会等について理解し、地元の課題解決に向けた発表を行う。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
フィールドワークで訪れる地域及び自分の住む町に関心を持ち、文献、資料などから情報を収集する。フィールドワークは現地までの移動時間、現地での調査などにおいて時間が掛かるため、通常の授業時間帯でなく、全員が揃う日時（場合によっては土・日・休日を含む）にて実施する場合がある。受講生確定後、速やかに決定するが、その場合は通常授業時間は振り替えとする。
事前学修、事後学修として週に4時間程度の学修が望まれる。

評価方法
授業への参加態度（40%）、フィールドワークレポート（15×2回＝30%）、私の住む町レポート内容・発表（30%）レポートに対してムードルでフィードバックする。発表に対してはその都度口頭にてフィードバックする。

教科書 特になし、プリント等を配布	参考図書 観光関連専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行）『トラベルジャーナル』など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7307号室

01	4/11「地方創生」と地域学修の概念
02	4/18 有松の歴史、文化と産業を学ぶ①（講義）
03	4/25 有松の歴史、文化と産業を学ぶ②（外部講師）
04	5/2 有松フィールドワーク（ボランティアガイド付き）
05	5/9 有松絞り体験（実費1,760円）
06	5/16 有松福寄せ雛創作
07	5/23 有松フィールドワーク（各グループ調査）
08	6/6 有松絞りまつり参加（6/4・5に実施予定）
09	6/13 「私たちが考える有松の姿」レポート作成①（グループワーク）
10	6/20 「私たちが考えるこれからの有松」レポート発表②（グループワーク）
11	6/27 私の住む町を学ぶ①（各自調査）
12	7/4 私の住む町を学ぶ②（レポート作成）
13	7/11 私の住む町を学ぶ③（レポート作成）
14	7/25 私の住む町を学ぶ④（発表）
15	8/1 私の住む町を学ぶ⑤（発表）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:英語コミュニケーションⅠ	担当者:Eleanor Sugiura	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators [DP]. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics [EN] [AL].

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics [DP]and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker [EN] [AL].

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks [EN] [AL].

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Feedback through graded homework vocabulary sheets.
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%
Feedback through presentation rubrics.

教科書	参考図書
Active Skills for Communication Book 2 by Chuck Sandy and Curtis Kelly. HEINLE Cengage Learning.	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attendance: Students are expected to attend class regularly. Students who miss 6 classes will receive an F.

01	Unit 1 Class Facebook (Interrogatives, Verb phrases)
02	Unit 1 Class Facebook (Infinitives, Personal Information)
03	Unit 2 Personal Motto (State of being verbs)
04	Unit 2 Personal Motto (Adjectives, Prepositions)
05	Review and Assessment (Unit 1 - Unit 2)
06	Unit 3 Tall Tales (Past progressive tense & past simple tense)
07	Unit 3 Tall Tales (Storytelling expressions, Adjectives).
08	Unit 4 Keepsakes (Keepsake items, Time expressions)
09	Unit 4 Keepsakes (Present perfect tense, Present perfect continuous tense)
10	Review and Assessment (Unit 3 - Unit 4)
11	Unit 5 Team Spirit (Plural/ singular nouns)
12	Unit 5 Team Spirit (Discussion expressions)
13	Unit 6 Hot Spots (Locations, Adjectives)
14	Unit 6 Hot Spots (Gerunds & infinitives, Activities)
15	Review of all units and speaking test (final assessment).
16	No test

2022年度シラバス

科目名:英語コミュニケーションⅡ	担当者:Eleanor Sugiura	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course will help students improve their overall ability to use spoken English. Classes will include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators [DP]. Students will also develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics [EN] [AL].

授業の到達目標
By the end of the course, students will have expanded their ability to talk about everyday topics [DP] and have the confidence to conduct successful ten-minute conversations in English with a helpful native speaker [EN] [AL].

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students can expect to spend from 45-60 minutes outside of class for homework and class preparation before each class. More time will be expected when preparing for assessment tasks [EN] [AL].

評価方法
Class participation: 15%
Homework and class preparation: 15%
Feedback through graded homework vocabulary sheets.
Assessment #1: 20% Assessment #2: 20% Final assessment: 30%
Feedback through graded presentation rubrics.

教科書	参考図書
Active Skills for Communication Book 2 by Chuck Sandy and Curtis Kelly. HEINLE Cengage Learning.	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attendance: Students are expected to attend class regularly. Students who miss 6 classes will receive an F.

01	Unit 7 Class Cookbook (Cooking-related vocabulary)
02	Unit 7 Class Cookbook (Imperatives, Sequencing expressions)
03	Unit 8 Business Venture (Definite or indefinite articles)
04	Unit 8 Business Venture (Business vocabulary)
05	Review and Assessment (Unit 7 - Unit 8)
06	Unit 9 Job Interview (Verb phrases, Modals and related expressions)
07	Unit 9 Job Interview (Job-related vocabulary)
08	Unit 10 TV Preview (TV show & movie vocabulary)
09	Unit 10 TV Preview (Relative clauses) 10. Review and Assessment (Unit 9 - Unit 10) Unit 10 TV Preview (Relative clauses) 10. Review and Assessment (Unit 9 - Unit 10) Unit 10 TV Preview (Relative clauses)
10	Review and Assessment (Unit 9 - Unit 10)
11	Unit 11 Public Opinion (Hypothetical situations)
12	Unit 11 Public Opinion (Reporting results)
13	Unit 12 Mini Debate (Position statements)
14	Unit 12 Mini Debate (Debate issues)
15	Review of all units and speaking test (final assessment).
16	No test

2022年度シラバス

科目名:環境の科学	担当者:辻 広志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は、桜花学の「自然を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この授業では、様々な生態系における環境問題と生物の保全対策について学び、ヒトと自然の共生のあり方について考えます。プリントと視聴覚教材を使用した講義（10回）、小グループ内でのレポート発表（4回）、野外実習（１回）を行います。【AL】

授業の到達目標
地球環境、生態系のしくみ、生物多様性について理解し、環境保全活動の実践方法を知る。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
環境問題・自然環境・野生生物に関する最新の情報を、新聞やテレビ、インターネット等で入手することを心がけてください。

評価方法
レポート試験50%、平常点50%（授業感想文、ミニレポート、授業への参加態度）で総合評価します。授業において提示した課題については、次回以降にフィードバックを行います。

教科書	参考図書
使用しない	授業中に適宜紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・この授業は、初回から受講することが求められており、2回目以降からの受講は避けて下さい。
・天候等により授業計画を変更することがあります。
・質問等がある場合は、Moodleかメール、もしくは研究管理棟２Ｆの218研究室に来てください。

01	イントロダクション：環境問題と私たちの暮らし
02	生物多様性と自然の恵み
03	生態系のしくみと生き物どうしのつながり
04	植物の種子散布と身近な雑草の生存戦略（ミニレポート発表）
05	野外実習：キャンパスの自然観察（樹木の葉の観察）
06	外来生物が生態系に及ぼす影響
07	地球温暖化が生物に及ぼす影響（ミニレポート発表）
08	有害化学物質・環境ホルモンによる環境汚染
09	エネルギー資源利用による環境負荷
10	自然保護区による生態系の保全
11	レッドリストと絶滅危惧生物の保全
12	企業・市民による環境保全活動（ミニレポート発表）
13	ビオトープと自然再生事業
14	女子学生の自然体験と身近な生き物アンケート
15	レポート発表
16	なし

2022年度シラバス

科目名:食と生命の科学	担当者:辻岡 和代・木村 達志	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:受講者上限を超えた場合は抽選とします		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は、桜花学の「自然を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この授業では、食および生命の科学に触れ、現代社会に不可欠な自然科学的な見識を深めます。1回目は合同で講義を受け、その後2グループに分かれ、それぞれの教員から７回ずつ受講するオムニバス形式の授業形態とします。7回のうち、木村は講義（5回）、プレゼンテーション（2回）を行い、辻岡は、演習（５回）、プレゼンテーション（2回）を行います。【AL】

授業の到達目標
・食の科学に関する幅広い知識を習得し、体系的・総合的に理解を深めることができる【DP】（辻岡）
・科学的根拠をもとに学生同士で意見交換し、食の重要性を他者に伝える能力を養うことができる【DP】（辻岡）
・生命科学に関する幅広い知識を習得し、体系的・総合的に理解を深めることができる【DP】（木村）
・科学的根拠をもとに、健康管理の基本である体重管理の重要性を他者に伝える能力を養うことができる【DP】（木村）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・毎回、準備学修として事前課題を出しますので、取り組んでください。（辻岡）
・食に関する情報の科学的根拠を授業内での学習をもとに積極的に考える力を養ってください。（辻岡）
・受講期間中は体重測定や生活活動記録を行いますので、正確なデータを記録して下さい（木村）
・巷にあふれる健康に関する情報について、取捨選択する力を養ってください。（木村）
（各授業４時間程度）

評価方法
平常点（授業態度・グループ学習・実験の取り組み・プレゼンテーション等）40%、レポート試験（2人の教員がそれぞれレポート課題を課します）60%の割合で評価します。提出された課題のフィードバックは、次回授業内での話題提供、提出物の返却、Moodle等を通して行います。

教科書	参考図書
特になし	授業内で紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・受講者の上限100名を超えた場合は抽選とします。
・質問等は、Moodleまたはオフィスアワーで受け付けます。詳細については授業で開示します。
・この授業は、初回から受講することが求められており、2回目以降からの受講は避けて下さい。
・授業にはパソコンを持参して下さい。
・100ｇ単位で測定できる体重計を用意して下さい。

01	食と生命の科学に関するオリエンテーション　（辻岡・木村）
02	食の科学：栄養素と科学的根拠　（辻岡）　【AL】
03	食の科学：栄養素の検出実験（辻岡）
04	食の科学：清涼飲料水の科学実験（辻岡）　【AL】
05	食の科学：食品添加物に関する知識と着色料の抽出実験（辻岡）
06	食の科学：食品の化学変化がもたらす調理実験（辻岡）
07	食の科学：食の調べ学習に関するプレゼンテーションと振り返り（辻岡）　【AL】
08	食の科学：食の実験に関するプレゼンテーションと振り返り（辻岡）　【AL】
09	生命の科学：レコーディングダイエットとは（木村）
10	生命の科学：体重を正確に測定する方法（木村）
11	生命の科学：基礎代謝量、生活活動強度、栄養所要量の算出（木村）
12	生命の科学：身体運動により消費されるエネルギー（木村）
13	生命の科学：自身のBMIの算出と日本人のBMIについて（木村）
14	生命の科学：行動変容と体重変化についてのプレゼンテーション前半グループ（木村）【AL】
15	生命の科学：行動変容と体重変化についてのプレゼンテーション後半グループ（木村）【AL】
16	

2022年度シラバス

科目名:生き物の社会	担当者:上原 隆司	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:　受講者上限を100名とし、超えた場合は抽選とします		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は、桜花学の「自然を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この授業では生物がいかに環境に適応して生きているか、生物どうしがどのように関わり合って生きているかを学びます。また、生物の進化から合理的な意思決定について理解し、そこから身近な人間活動においての合理的な振る舞いについても考えます。講義（10回）、グループ学習・問題解決学修（2回）、プレゼンテーション（3回）を行います。【AL】。

授業の到達目標
・生物の適応戦略について理解する【DP】
・合理的意思決定について理解を深める【DP】
・授業で得た知識や解析方法を身近な問題に応用し、自分で合理的解決策を考えることができるようになる【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
〇価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
・身近な生き物をよく観察し、その形態や生態を持つに至った理由について興味を持って考えてみること。
・授業では簡単な数学を使用する。レポートでも必要となるため、授業内で理解できなかったところを中心に復習すること。

評価方法
平常点（授業態度・ミニレポート等）50%、レポート30%、発表20%の割合で評価する。授業において提示した課題については、次回以降にフィードバックを行う。

教科書	参考図書
使用しない	授業内で適宜紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・受講者上限を超えた場合は抽選とします。
・この授業は初回から受講することが求められており、2回目以降からの受講は避けて下さい。
・質問はTeamsで受け付けます。
・授業には毎回パソコンを持ってきてください。

01	進化と自然選択
02	社会を持った生き物たち
03	異なる種の生き物たちの関わり（グループによる調べ学習と発表）
04	生き物の繁殖戦略
05	親と子の対立
06	性比のゲーム
07	性選択
08	ウイルスと病原体
09	感染症の広がりのシミュレーション
10	協力行動の進化
11	結婚問題の最適戦略
12	人口動態をもとに漁業問題を考える
13	身近な状況をゲームで表現してみよう
14	身近な問題とその解決方法についての発表（前半グループ）
15	身近な問題とその解決方法についての発表（後半グループ）
16	なし

科目名:スポーツⅠ	担当者:鬼頭 茉衣	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業では、ボクササイズを通してボクシングの基礎的な技術の習得及び、体力/筋力の向上を目指す。ボクササイズとは、音楽のリズムに合わせてボクシング特有のステップ・パンチコンビネーションを繰り出すエクササイズのことである。ボクシングの基礎的な技術を習得するだけでなく、身体に対する意識を高め、ボクササイズによる身体コンディショニングの基礎を学習する。また、ボクササイズだけでなく適宜、体つくり運動も実施する。

授業の到達目標
・ボクシングの特性を理解し、基礎的技術(ジャブ・ストレート・フック・アッパー)を身に付けることができる(DP)
・基礎的技術を応用し、様々なコンビネーションが繰り出せるようになる
・無酸素・有酸素の動作を繰り返すことにより、筋力及び体力が向上する(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
ボクシングの動画を観るなどして、動作のイメージを把握しておくと良い。

評価方法
・授業への参加/学習態度 60%、課題/レポートの提出 20%、確認テスト 20%
・フィードバックについて：提出された課題/レポートは、評価した上で適宜、授業内で課題点、留意点を伝える。

教科書 使用しない	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先は授業で開示する

01	オリエンテーション(授業概要説明)
02	ボクシングの基礎的動作の習得①（ステップ・構え方・ジャブ・ストレート）
03	ボクシングの基礎的動作の習得②（ステップ・ワンツー）
04	ボクシングの基礎的動作の習得③（ステップ・左右のフック）
05	ボクシングの基礎的動作の習得④（ステップ・左右のアッパー）
06	ボクシングの応用技術の習得①（コンビネーションⅠ）
07	ボクシングの応用技術の習得②（コンビネーションⅡ）
08	ボクシングの応用技術の習得③（ダッキング・スウェー・ウィービングⅠ）
09	ボクシングの応用技術の習得④（ダッキング・スウェー・ウィービングⅡ）
10	ボクシングの応用技術の習得⑤（コンビネーションⅣ）
11	総合ボクササイズ①（習得した技術を全てを組み合わせたボクササイズⅠ）
12	総合ボクササイズ②（習得した技術を全てを組み合わせたボクササイズⅡ）
13	ボクシング技術の活用①（ボクシング動作を用いた体つくり運動・タッチゲームによる実践Ⅰ）
14	ボクシング技術の活用②（ボクシング動作を用いた体つくり運動・タッチゲームによる実践Ⅱ）
15	まとめと確認テスト
16	

2022年度シラバス

科目名:スポーツⅠ	担当者:横井 康博	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
生涯スポーツとして広く受け入れられているゴルフという種目を授業内にだけにとどまらず、在学中または卒業後にも生かせる講義を行う。初心者を対象とした指導を行うように基礎的な部分を重視しながら進めていく。

授業の到達目標
ゴルフに関するマナー・エチケットに関する知識を身につけ、自分にあったグリップやスタンスを見つけ、自分のスイングを確立する【DP】。さらに、そのスイングでボールを打つ際にも崩れないスイングリズムを身につけることを目標とする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
特に捻転を求める種目なので授業内でもフォローはするが、各自で柔軟性を高める準備を行う。テレビなどでゴルフの中継を見ておく。

評価方法
基本的に全出席が望ましい。平常点・レポート点・授業態度・実技点を下記のように総合評価する。なお、服装やアクセサリーの不備に関しては、平常点から減点することとする。平常点３０％・レポート点１０％・授業態度４０％・実技点２０％
「フィードバック方法」実技に関する評価は、確認テストの後に即提示する。レポートに関する評価は、添削して本人にフィードバックする。

教科書	参考図書
特に無し	特に無し

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
アクセサリー禁止。服装は、ジャージや体操服（ジーンズやスウェット禁止）と運動靴で受講すること。

01	オリエンテーション　今後の授業の進め方
02	ゴルフの基礎知識
03	ゴルフスイングの基本Ⅰ　グリップの種類と握り方
04	ゴルフスイングの基本Ⅱ　アドレス姿勢の重要性
05	ゴルフスイングの基本Ⅲ　スイング軌道について①　バックスイング　切り返し　ダウンスイング
06	ゴルフスイングの基本Ⅳ　スイング軌道について②　インパクト　フォロースルー
07	ゴルフスイングの基本Ⅴ　スイングリズムと体重移動
08	ショットの基本Ⅰ　ボールを置く位置の違い
09	ショットの基本Ⅱ　打球の強弱を意識して
10	ショットの基本Ⅲ　方向性を意識して
11	ショットの基本Ⅳ　自身のコントロールによる打ち分け
12	ショートゲーム①
13	ショートゲーム②　ターゲットバードゴルフ
14	ショートゲーム③　パットゴルフ
15	まとめ　目標達成度チェック
16	なし

2022年度シラバス

科目名:スポーツⅡ	担当者:伊藤 僚	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
安定したラリーの修得をめざし、さらにはダブルスを中心とした試合形式のゲームを楽しむことができる。

授業の到達目標
サーブとリターン、ボレーやドロップができることを目標とする。
ダブルスゲームを通してポジショニングやパートナーちにコミュニケーションを学び(DP)、さらにテニスにおけるルールやマナーを深める（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
テニスは屋外で行う体力のいるスポーツです。日頃からの運動で基礎体力を身に付けておいてください。

評価方法
授業への参加態度80%　確認テスト20%
フィードバックは、授業時等において確認テスト等について個別あるいは全体へ行う。

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
運動の出来る服装（ジャージ）に着替え、運動の出来る靴を必ず履いてください。

01	ガイダンス　用具の説明
02	正確なグリップの理解
03	フォアハンドストロークの基礎
04	フォアハンドストロークの応用
05	バックハンドストロークの基礎
06	バックハンドストロークの応用
07	サーブの基礎①
08	サーブの基礎②
09	ドロップショット
10	スライスショット
11	ゲームのマナー及びルール
12	ダブルスゲーム①
13	ダブルスゲーム②
14	ダブルスゲーム③
15	確認テスト
16	

科目名:スポーツⅡ	担当者:川西　司	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
バドミントンの魅力のひとつは、だれでも手軽に楽しむことができる点にある。技術と戦術を学ぶことにより、運動量の多さや、技術の奥行きの深さ、戦術の複雑さに驚かされる。ダブルスゲームのフォーメションの理論と戦術、バドミントンの楽しさを体験する。バドミントンの理論と実践、またそれらを通して運動感覚を習得し、生涯にわたって年齢と体力に応じた豊かなスポーツライフを送るための基盤づくりをする。

授業の到達目標
・準備運動、整理運動の重要性を理解し、傷害の予防に留意してスポーツに親しむことができる。・スポーツの場の空間配置を整え、安全に留意したスポーツ行動の習慣化。　・市民スポーツの愛好者団体に参加し、リーダーシップを発揮することができる。・選択履修したスポーツ種目の特性を理解し、基本的技術、ルール、マナー、審判法を修得し、市民スポーツ競技会等に参加することができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
配布資料からルールや技術、戦術、歴史の予習復習をする。

評価方法
授業への積極的な参加度と技術的な進歩度によって総合的に評価する。授業への取り組み50%、種目特性の理解及び技術の習得度50%。
フィードバックは、授業時等において、提出物やパフォーマンス等について個別あるいは全体講評にて行う。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
それぞれのスタート地点は違います。毎回の授業で全体の目標以外に、自らの目標を設定し、あきらめずに努力を重ねましょう。小さな進歩の積み重ねが、スポーツの楽しさへとつながります。

01	オリエンテーション．授業の進め方の説明など。
02	ラケットの使い方Ⅰ
03	ラケットの使い方Ⅱ　シャトルの特性
04	ラケットの使い方Ⅲ　ラリーを楽しむ
05	ショットⅠ(ハイクリア・ドライブ)ダブルス簡易ゲーム
06	ショットⅡ(ヘアピン）ダブルスゲームのルールと審判
07	ショットⅢ（プッシュ）ダブルスゲーム。
08	ショットⅣ（ロブ）バドミントンの歴史、ダブルスゲーム。ダブルスのフォーメーション
09	ショットⅤ（スマッシュ）ダブルスゲーム。ダブルスのフォーメーションの応用
10	ロングサービスとショートサービス。ダブルスゲーム。
11	修得した技術の見直し。フットワーク(前後　左右への動き）　ダブルスゲーム。
12	運動感覚の習得Ⅰ　　ダブルスゲーム
13	運動感覚の習得Ⅱ　ダブルスゲーム
14	運動感覚の習得Ⅲ　ダブルスゲーム
15	まとめとして習得した技術の発表。ダブルスゲーム
16	なし

科目名:統計学	担当者:髙瀬 慎二	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:Microsoft Excelがインストールされているノートパソコンを持参できること		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
現代では多種多様な数値データが蓄積され、課題解決に活用されている。また、研究論文を読み解く、あるいは調査研究を行う際などにも統計学の知識を活用する場面もある。本講義では、数値データの処理や解釈に必要となる統計の知識や理論を学び、現代の多様な課題を発見、分析、解決し、社会に貢献できる能力を身に付けること、さらには「総合的な人間力」を養うことを目的とする。講義ではMicrosoft Excelを利用し、データ分析の演習課題も行う。

授業の到達目標
数値要約の概念について理解し、計算により求めることができる。数値データの種類に応じて適切な図や表で示すことができる（DP）。数値データに応じた適切な統計的分析を自身のパソコンで行える。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書や配布資料の該当箇所を確認する、演習課題を行うなどにより平均して４時間程度の授業外での予習・復習が必要である。

評価方法
確認テスト（60%）、授業内の課題（40%）
課題のフィードバックとして授業内課題については解答を当該授業後にウェブ上で提示する。また、特に理解が難しかったと思われる設問は次回授業時に解説を行う。確認テストについては希望者に得点を開示する。

教科書	参考図書
荒川俊也「Excelによるやさしい統計解析」オーム社、ISBN：978-4274226120	南風原朝和「心理統計学の基礎」有斐閣アルマ、ISBN：978-4641121607

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義時間外での質問は、メールで行うこと。メールアドレスは、講義中に開示する。

01	統計学についての概要、データの種類（尺度水準）
02	度数分布表、ヒストグラム
03	代表値、散布度
04	表やグラフの種類とその特徴
05	母集団と標本、正規分布
06	標準化
07	母集団の推定、不偏推定量
08	区間推定
09	統計的仮説検定の考え方、１つの平均値の検定
10	２つの平均値の検定（t検定）
11	３つ以上の平均値の検定（分散分析）
12	相関（２変数の関係）
13	回帰分析（単回帰分析）
14	回帰分析（重回帰分析）
15	確認テストとまとめ
16	なし

科目名:社会調査法	担当者:南 裕一郎	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義では、社会調査（social research）の理論と技法について学ぶ。社会調査は「社会」のすがたを明らかにする手段である。明確な問題意識に基づいて仮説を立て、調査方法の選定、調査の設計、実査、データの分析と命題の提示にいたるまでのプロセスを科学的・客観的に処理する方法について詳説する。
社会調査には、量的調査と質的調査という2つの調査タイプがある。社会のすがたを数量的に把握するには量的調査が適しており、個人や集団の多様性を洞察的に把握するには質的調査が適しているが、調査を実施する私たち自身もその社会の一員であることを忘れてはならない。「社会調査する」ことは、自分とは何か、自分と社会はどうつながっているのかについて考えるきっかけにもなる（桜花学「社会を知る」「人間を知る」「自分を知る」に該当）。

授業の到達目標
【リサーチ・リテラシー】社会調査の理論・方法論・実践的技法を修得し、卒業論文などでアンケート調査、インタビュー調査などを実施できるようにするとともに、論文やレポート、報告書等の作成に必要な論理的な文章の書きかた・構成のしかたについても身につける。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
（1）日頃から新聞やテレビ、インターネットなどにあふれているさまざまな「調査」（アンケート、インタビューなど）について目配りし、私たちの社会がどうなっているのか、どんな仕組みで動いているのかについて考える習慣をつけること。また、授業で配布された印刷教材をかならず事前・事後に読んでおくように。
（2）ほぼ毎回、社会調査について取り上げた番組を視聴します。ネット上で視聴可能なものもあるので、授業内で観た以外の回についても観ておいてください。
（3）授業内でパソコン（おもにExcel）を使用する回があります（2〜3回）。日ごろから積極的にExcelを使うように心がけてください。

評価方法
①期末レポート：70%（各自で調査を実施し、調査報告書を期末レポートとして提出する）、②授業への参加態度：15%、③授業内で課す課題（5〜6回程度）：15%、の評価を合算し、総合的に評価します。
【授業内の課題等に対するフィードバック方法】
1. 課題については、次回の授業内ですべての回答を提示し、個別にコメントを加えていきます。
2. 期末レポートに向けて作成する調査計画については、メール等で個別に指導・アドバイスをおこないます。
3. 提出された期末レポートについては、全体的な総括をメール等でおこない、希望者に対しては個別の講評をしていきます。

教科書	参考図書
市販テキストは使用せず、オリジナルの印刷教材を毎回配布します。	授業内で適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
4年次に卒業研究でアンケートやインタビュー、観察などの「社会調査」を実施しようと考えている人はぜひとも受講してください。なお、期末レポートは毎回の授業への出席がなければ到底作成できないので、意欲ある人の積極的な参加を要件とします。

01	社会調査の目的
02	社会調査の意義・歴史・課題
03	社会調査の手順①：問題意識をもつ
04	社会調査の手順②：仮説の構築と調査方法の決定
05	社会調査の手順③：収集データの分析
06	社会調査の手順④：分析結果の解釈と調査結果の作成
07	因果関係と相関関係
08	統計データをもとにさまざまな分析をおこなう（e-Statを使用）
09	量的データ収集の方法――サンプリング（単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出など）
10	質問紙調査票を作成する（ワーディングの重要性）
11	データ入力とさまざまな統計分析をおこなう（Excelでのクロス集計表・グラフの作成）
12	観察調査の実践（フィールドワーク、参与観察、行動観察など）
13	インタビュー調査の技法（アポイントメントの取り方、質問の仕方、インタビューの練習）
14	レポート・論文の書き方
15	リサーチ・リテラシーを身につけるためには
16	なし

2022年度シラバス

科目名:情報社会論	担当者:佐久間 潔	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:パソコンを持参して授業内で利用できること		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義は、「社会人基礎力」を自ら育み、桜花学園大学の建学の精神である社会の発展に寄与する「信念のある女性」としての基礎を培うための科目群に位置づけられている。
急激に情報化が進む現代社会の中では情報を自ら取得してリアルタイムで変化していく環境に対応するために活用していくことが必要である。授業の中でコンピュータを利用して小テストを実施する。また、情報社会と情報について学んだ結果、自分たちが将来を含んで情報社会とどのように接したら良いかを検討し、プレゼンテーションする。

授業の到達目標
身の回りの情報化を意識し、今後変化していく社会の中でも情報の適切な活用ができるようになる。
【ＤＰ】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
〇価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
普段利用しているディバイス（パソコン・スマートフォン・ソーシャル・メディアなど）について、自分の生活を豊かにするためのより便利な使い方がないかを探す。
各授業について必要時間（1時間）

評価方法
平常点（授業態度・プレゼンテーション等）30%、レポート・テスト等70%の割合で評価する。
課題等に対するフィードバックについては、印刷物などで返却する。

教科書	参考図書
特になし、資料は適宜配布	必要に応じて適宜提示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・毎回、パソコン使用します。
・質問等はメール（sakuma@ohkagakuen-u.ac.jp）または、情報総合センターで受け付けます

01	情報化社会とは（オリエンテーションを含む）
02	情報メディアとその変遷(1)
03	情報メディアとその変遷(2)
04	情報メディアとその変遷(3)
05	情報の取得・加工・利用
06	コンピュータ社会とネットワーク社会
07	コンピュータ社会からデジタルネットワーク社会へ
08	情報社会の発展
09	成熟する情報社会
10	情報社会における社会情報システム
11	情報社会と生活
12	情報社会と情報公開
13	情報社会と情報財産
14	情報社会と情報保護
15	情報社会と犯罪・倫理
16	試験（moodleまたはForms）

科目名:インターンシップ（国内）A	担当者:根尾 文彦	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本科目では学芸学部ディプロマポリシーにある、修得した知識に沿って批判的思考ができ、グルーバル化した社会に向けて理論的で創造的な発信ができる能力を身につけることを目指す。原則として夏季・春季休み期間を利用して、一般企業、各種団体などにおいて職場体験を通して、組織の仕組み、仕事の流れ及び労働への理解を深める。卒業後のキャリアプラン（就職活動を含む）の設定において、自分が将来希望する職種などについて実習を通して学ぶことは非常に有意義である。基本実習期間は1週間または30時間以上とする。

授業の到達目標
①社会において大切なコミュニケーション能力を実体験において修得する。（DP）②企業、組織の役割、公権力を実体験において学修する。（DP）③卒業後のキャリアプランを見据えた業界情報を修得する。（DP）④インターンシップ後の発表会において成果を報告する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
社会人生活を意識して、新聞、本、ＴＶ等から様々な情報を入手し、特に社会情報に対して強い関心を持つ。
特にインターンシップ研修先の業界研究を行う。
事前学修、事後学修として週に2時間程度が望まれる。

評価方法
インターンシッププログラム全体を通した取り組み姿勢（40%）、受入れ機関の個人評価（10%）、研修日程の内容及びプレゼンテーションの内容（50%）などを総合して評価する。事前学習及び発表後にその都度口頭にてフィードバックする。

教科書	参考図書
特になし	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7307号室

01	インターンシップ説明会
02	インターンシップ受講申込み手続き（エントリーシート）
03	学内面接
04	外部講師などによるビジネスマナー研修
05	インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修①
06	インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修②
07	インターンシップ受入れ機関への事前挨拶訪問
08	インターンシップ受入れ機関にて実習①
09	インターンシップ受入れ機関にて実習②
10	インターンシップ受入れ機関にて実習③
11	インターンシップ受入れ機関にて実習④
12	インターンシップ受入れ機関にて実習⑤
13	インターンシップ受入れ機関にて実習⑥
14	インターンシップ学内事後研修（研修のまとめ）
15	インターンシップ体験発表
16	なし

科目名:インターンシップ（国内）B	担当者:根尾 文彦	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本科目では学芸学部ディプロマポリシーにある、修得した知識に沿って批判的思考ができ、グルーバル化した社会に向けて理論的で創造的な発信ができる能力を身につけることを目指す。原則として夏季・春季休み期間を利用して、一般企業、各種団体などにおいて職場体験を通して、組織の仕組み、仕事の流れ及び労働への理解を深める。卒業後のキャリアプラン（就職活動を含む）の設定において、自分が将来希望する職種などについて実習を通して学ぶことは非常に有意義である。基本実習期間は2週間または60時間以上とする。

授業の到達目標
①社会において大切なコミュニケーション能力を実体験において修得する。（DP）②企業、組織の役割、公権力を実体験において学修する。（DP）③卒業後のキャリアプランを見据えた業界情報を修得する。（DP）④インターンシップの発表会において成果を報告する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
社会人生活を意識して、新聞、本、ＴＶ等から様々な情報を入手し、特に社会情報に対して強い関心を持つ。
特にインターンシップ研修先の業界研究を行う。
事前学修、事後学修として週に4時間程度の学修が望まれる。

評価方法
インターンシッププログラム全体を通した取り組み姿勢（50%）、受入れ機関の個人評価（10%）、研修日程の内容及びプレゼンテーションの内容（50%）などを総合して評価する。事前学習及び発表後にその都度フィードバックする。

教科書	参考図書
特になし	授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7307号室

01	インターンシップ説明会
02	インターンシップ受講申込み手続き（エントリーシート）
03	学内面接
04	外部講師などによるビジネスマナー研修
05	インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修①
06	インターンシップ受入れ機関に関する学内事前研修②
07	インターンシップ受入れ機関への事前挨拶訪問
08	インターンシップ受入れ機関にて実習①
09	インターンシップ受入れ機関にて実習②
10	インターンシップ受入れ機関にて実習③
11	インターンシップ受入れ機関にて実習④
12	インターンシップ受入れ機関にて実習⑤
13	インターンシップ受入れ機関にて実習⑥
14	インターンシップ学内事後研修（研修のまとめ）
15	インターンシップ体験発表
16	なし

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅲ	担当者:内田 政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:保育学科は選択科目　必ずPlacement Testを受けること		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases” では状況に応じた会話の流れを学習し、日常生活にも役立つ表現を覚えます。加えて、インターラクティブな学習法を利用して、保育現場につながる実践的な英語を学びます。

授業の到達目標
　保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。とりわけ、アウトプットの量を増やすことで、知っている知識から使える知識へとつなげていきます。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。また、フレーズ集（Active Comunication with Phrases）からの確認テストを行う際には準備して受験すること。テキストには付属のSelf-Study用CDが用意されているため、通学などの時間を利用して繰り返し聞くようにすること。

評価方法
授業への参加度　30%　小テスト　30%　定期テスト40% 前回のフィードバックまた小テストの復習・返却は翌週行います。

教科書	参考図書
Maiko Tsuchiya 著 Happy English for Childcare（金星堂） 内田政一他 Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書・辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませ、予習を欠かさないこと。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Introduction & Placement Test
02	Class Orientation
03	Unit 1: Hi,I'm Yuri Takana ／ Phrase Learning 11
04	Unit 2: Where is the Multi-purpose Room?
05	Review (Unit 1 & 2) ／ Phrase Learning 12
06	Unit 3: Good morning, how are you today
07	Unit 4: What color do you like? ／ Phrase Learning 13
08	Review (Unit 3&4)
09	Mid-term Examination (Unit 1-4)
10	Unit 5: There's a Ladybug on the leaf? ／ Phrase Learning 14
11	Unit 6: It's time to play outside.
12	Review (Unit 5&6) ／ Phrase Learning 15
13	Unit 7: She's allergic to eggs.
14	Review (unit7) ／ Phrase Learning 16
15	Extra Activity
16	Final Examination (Unit 5-8)

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅲ	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:国際教養こども学科は必修科目		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
The main aim of this course is for students to practice an refine their listening and reading skills in general and develop basic test-taking strategies for overall TOEIC L&R test. This course is also designed to improve students' overall TOEIC L&R test scores. 【AL】【EN】

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to 1. become familiar with the TOEIC L&R test and improve basic test-taking strategies. 2. develop listening and reading skills necessary for the TOEIC L&R test. 3. improve overall English proficiency and increase their confidence with English. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring an English/ Japanese dictionary to class. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Class participation 20%, Quizzes and homework 30% Midterm exam 20% Final exam 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Mastery Drills for the TOEIC® L&R TEST All in One [New Edition] (Kirihara Shoten) Active Communication with Phrases (Nan-un do)	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask question during class, and actively work on improving their communication skills. And also, all classwork and homework must be completed on time.

01	Placement test
02	Course introduction　Phrase Learning 11
03	Unit 1. 人物の動作と状態／表・用紙
04	Unit 2. 疑問詞を使った疑問文／広告　Phrase Learning 12
05	Unit 3. 日常場面での会話／品詞
06	Unit 4. アナウンス・ツアー／動詞　Phrase Learning 13
07	Unit 5. 物の状態と位置／チャット　Midterm exam
08	Unit 6. 基本構文と応答の決まり文句／手紙・Eメール　Phrase Learning 14
09	Unit 7. 電話での会話／代名詞・関係代名詞
10	Unit 8. ラジオ放送・宣伝／接続詞・前置詞　Phrase Learning 15
11	Unit 9. Yes/No疑問文／ダブルパッセージ
12	Unit 10. オフィスでの会話①／Part 5の復習　Phrase Learning 16
13	Unit 11. 留守番電話／トリプルパッセージ
14	Unit 12. オフィスでの会話②／Part 7の復習
15	Unit 13. Part 1とPart 2の復習／時制・代名詞・語い問題
16	Final exam

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅲ	担当者:高橋 妙子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:保育学科は選択科目　必ずPlacement Testを受けること		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。“Speaking of Childcare” で保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases” では状況に応じた会話の流れを学習し、日常生活にも役立つ表現を覚えます。テキスト以外にも季節に合わせたActivity にチャレンジしたり、DVDや英語の歌などを通して、英会話と文化的な知識を身につけます。(AL)(EN)

授業の到達目標
保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、４技能のバランスが取れた総合的な英語力を身につけます。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学んだ表現や語彙は必ず覚え、課題や復習はしっかりと行うこと。（２時間） フレーズ集からの確認テストを行う際には準備をして受けること。Moodle で授業で使う音声教材を全て聞くことができ、テキストの問題以外にも、Moodle Quiz (Dictation) などを提供するので、各自のペースで学習すること。（２時間）

評価方法
Activity (Pair & Group Work) ２０％、 Quiz ３０％、 Review Test５０％
Quiz、Activity、Review Test についてのフィードバックは、主にOhka moodle & 大学メールで伝達。

教科書	参考図書
“Happy English for Childcare” 保育のための基礎英語 KINSEIDO Maiko Tsuchiya 著 “Active Communication with Phrases” (南雲堂) 内田政一他著	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には辞書必携（電子辞書、辞書アプリOK）。将来保育現場や日常会話で使うことを想定して、復習のための時間は十分に確保すること。

01	Placement Test & Introduction
02	Class Orientation, Classroom English Pre-Unit
03	Unit 1: Hi, I’m Yuri Takana Phrase Learning 11
04	Unit 2 : Where Is the Multi-purpose Room?
05	Review (Unit 1 & 2) Phrase Learning 12
06	Unit 3 : Good morning, How Are You Today?
07	Unit 4 : What Color Do You Like? Phrase Learning 13
08	Review (Unit 3 & 4)
09	Mid-term Examination (Unit1-4)
10	Unit 5 : There’s a Ladybug on the Leaf Phrase Learning 14
11	Unit 6 : It’s Time to Play Outside
12	Review (Unit 5 & 6) Phrase Learning 15
13	Unit 7 : She is Allergic to Eggs
14	Review (Unit 7) Phrase Learning 16
15	Extra Activity
16	Final Examination (Unit 5-8)

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅲ	担当者:大橋 昌弥	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:保育学科は選択科目　必ずPlacement Testを受けること		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の４技能であるListening･Speaking･Reading･Writingをバランスよく学習していきます。“Happy English for Childcare”で保育の場面で使用する英語を学び、日常にも役立つ表現を覚えます。加えて、インタラクティブな学習法を利用することで保育現場につながる実践的な英語を学びます。

授業の到達目標
　保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。とりわけ、アウトプットの量を増やすことで知っている知識から使える知識へとつなげていきます（DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト　30%　　定期テスト　40%
フィードバックは、個人への提出物返却及び授業におけるクラス全体への講評等によって行う。

教科書	参考図書
Happy English for Childcare（金星堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書と辞書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

01	Introduction & Placement Test
02	Class Orientation Pre-unit Please Speak More Slowly
03	Unit 1 : Hi, I'm Yuri Tanaka
04	Unit 2 : Where Is the Multi-purpose Room?
05	Review (Unit 1 & 2)
06	Unit 3 : Good Morning. How Are You Today?
07	Unit 4 : What Color Do You Like?
08	Review (Unit 3 & 4)
09	Mid-term Examination (Unit 1-4)
10	Unit 5 : There's a Ladybug on the Leaf
11	Unit 6 : It's Time to Play Outside
12	Review (Unit 5 & 6)
13	Unit 7 : Wht's she like?
14	Unit 8 : You Should Go to the Bathroom
15	Review (Unit 7 & 8)
16	Final Exam

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅳ	担当者:内田 政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:保育学科は選択科目		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases” では状況に応じた会話の流れを学習し、日常生活にも役立つ表現を覚えます。加えて、インターラクティブな学習法を利用して、保育現場につながる実践的な英語を学びます。

授業の到達目標
　保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。とりわけ、アウトプットの量を増やすことで、知っている知識から使える知識へとつなげていきます。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。また、フレーズ集（Active Communication with Phrases）からの確認テストを行う際には準備して受験すること。テキストには付属のSelf-Study用CDが用意されているため、通学などの時間を利用して繰り返し聞くようにすること。

評価方法
授業への参加度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40% 前回のフィードバックまた小テストの復習・返却は、翌週おこないます。

教科書	参考図書
Miko Tsuchiya 著 Happy English for Children（金星堂） 内田政一他 Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書・辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませ、予習を欠かさないこと。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Activity after Summer Vacation
02	Unit 8: You should go to the bathroom. ／ Phrase Learning 17
03	Unit 9: We made masks today.
04	Review (Unit 8-9) ／ Phrase Learning 18
05	Extra Activity
06	Unit 10: If it rains, what happens? ／ Phrase Learning 19
07	Unit 11: What shall we do today?
08	Review (Unit 10&11) ／ Phrase Learning 20
09	Extra Activity
10	Unit 12: I feel feverish.
11	Unit 13: This is Yuri from Cosmos Day Care Center.
12	Review (Unit 12-13)
13	Unit 14: We're going to go outside.
14	Extra Activity
15	Review (Unit 14)
16	Final Examination (Unit 8-14)

2022年度シラバス

科目名:総合英語IV	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:国際教養こども学科は必修科目		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
The main aim of this course is for students to practice an refine their listening and reading skills in general and develop test-taking strategies for overall TOEIC L&R test. This course is also designed to further improve students' overall TOEIC L&R test scores. 【AL】【EN】

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to 1. further improve test-taking strategies. 2. develop listening and reading skills necessary for the TOEIC L&R test. 3. improve overall English proficiency and increase their confidence with English. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be required to bring an English/ Japanese dictionary to class. Students should be prepared to speak a lot in class.

評価方法
Class participation 20%, Quizzes and homework 30% Midterm exam 20% Final exam 30%
Students will be able get direct feedback at the end of the course.

教科書	参考図書
Mastery Drills for the TOEIC® L&R TEST All in One Advanced (Kirihara Shoten) Active Communication with Phrases (Nan-un do)	Other course materials will be provided by the teacher

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students will be expected to participate during class discussions, ask question during class, and actively work on improving their communication skills. And also, all classwork and homework must be completed on time.

01	Course introduction Phrase Learning 17
02	Unit 1. 人物の動作表現／品詞・代名詞
03	Unit 2. 疑問詞で始まる疑問文／態・分詞 Phrase Learning 18
04	Unit 3. 店・ホテルでの会話／読解の基礎を身につける
05	Unit 4. 留守番電話／詳細情報を特定する Phrase Learning 19
06	Unit 5. 物に関する描写／話の展開を読み取る
07	Unit 6. Yes/No疑問文・選択疑問文／接続詞・前置詞 Phrase Learning 20
08	Unit 7. 日常生活における会話／内容把握に挑戦する
09	Unit 8. アナウンス・宣伝／語彙問題 Midterm exam
10	Unit 9. ステートメント・付加疑問文／時制・代名詞・語彙
11	Unit 10. オフィスでの会話①／マルチプルパッセージ (2つ)
12	Unit 11. トーク (会議・イベント) ／Part 5の復習
13	Unit 12. オフィスでの会話①／つなぎ語・文選択
14	Unit 13. ニュース・ラジオ放送／マルチプルパッセージ (3つ)
15	Unit 14. 図表問題と意図問題／Part 6とPart 7の復習
16	Final exam

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅳ	担当者:高橋 妙子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:保育学科は選択科目		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。“Speaking of Children” で保育の場面で使用する英語を学び、“Active Communication with Phrases” では状況に応じた会話の流れを学習し、日常生活にも役立つ表現を覚えます。テキスト以外にも季節に合わせたActivity にチャレンジしたり、DVDや英語の歌などを通して、英会話と文化的な知識を身につけます。(AL)(EN)

授業の到達目標
保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、４技能のバランスが取れた総合的な英語力を身につけます。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業で学んだ表現や語彙は必ず覚え、課題や復習はしっかりと行うこと。（２時間） フレーズ集からの確認テストを行う際には準備をして受けること。Moodle で授業で使う音声教材を全て聞くことができ、テキストの問題以外にも、Moodle Quiz (Dictation) などを提供するので、各自のペースで学習すること。（２時間）

評価方法
Activity (Pair & Group Work) ２０％、 Quiz ３０％、 Review Test５０％
Quiz、Activity、Review Test についてのフィードバックは、主にOhka moodle & 大学メールで伝達。

教科書	参考図書
″Happy English for Childcare 保育のための基礎英語 ″ KINSEIDO Maiko Tsuchiya著 “Active Communication with Phrases” (南雲堂) 内田政一他著	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には辞書必携（電子辞書、辞書アプリOK）。将来保育現場や日常会話で使うことを想定して、復習のための時間は十分に確保すること。

01	Activity after Summer Vacation
02	Unit 8 : You Should Go to the Bathroom Phrase Learning 17
03	Unit 9 : We Made Masks Today
04	Review (Unit 8-9) Phrase Learning 18
05	Extra Activity
06	Unit 10 : If It Rains, What Happens? Phrase Learning 19
07	Unit 11 : What Shall We Do Today?
08	Review (Unit 10-11)
09	Extra Activity
10	Unit 12 : I Feel Feverish Phrase Learning 20
11	Unit 13 : This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
12	Review (Unit 12-13)
13	Extra Activity
14	Unit 14 : We’re Going to Go Outside
15	Review (Unit 14)
16	Final Examination (Unit 9-15)

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅳ	担当者:大橋 昌弥	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:保育学科は選択科目		単位数	1
		必須.選択	

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の４技能であるListening･Speaking･Reading･Writingをバランスよく学習していきます。“Happy English for Childcare”で保育の場面で使用する英語を学び、日常にも役立つ表現を覚えます。加えて、インタラクティブな学習法を利用することで保育現場につながる実践的な英語を学びます。

授業の到達目標
　保育現場で使用できる英語表現と、日常会話で役立つ表現を学び、４技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけます。とりわけ、アウトプットの量を増やすことで知っている知識から使える知識へとつなげていきます（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　必ずテキストを予習して授業に参加し、新たに学んだ表現や語彙はしっかりと復習すること。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト　30%　　定期テスト　40%
フィードバックは、個人への提出物返却及び授業におけるクラス全体への講評等によって行う。

教科書	参考図書
Happy English for Childcare(金星堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書と辞書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で済ませ、予習を欠かさないこと。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内で知らせる。

01	Activity after Summer Vacation
02	Unit 9 : We Made Masks Today
03	Unit 10 : If It Rains, What Happens?
04	Review (Unit 9 & 10) / Phrase Learning 18
05	Extra Activity
06	Unit 11 : What Shall We Do Today
07	Unit 12 : I Feel Feverish
08	Review (Unit 11 & 12) / Phrase Learning 20
09	Extra Activity
10	Unit 13 : This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
11	Unit 14 : Thank You Very Much for Everything
12	Extra Activity
13	Review (Unit 13-15)
14	Extra Activity
15	Review (Unit 9-15)
16	Final Examination　(Unit 9-15)

2022年度シラバス

科目名:中国語と文化Ⅲ	担当者:韓 丹	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:初級中国語を習得した者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業は1年次中国語を習得した学生を対象とする。この授業は共通教育科目における「グローバル化に対応したコミュニケーションスキル関係」の「基礎科目」であり、「外国語の運用能力・表現能力」を育成し、「信念ある女性」としての基礎育成の一環としているものである。中国語と文化Ⅰ、Ⅱで身につけた発音に関する基礎知識を踏まえて、基礎的な語彙、文法を適切に運用し、簡単な日常会話能力を習得していくことを目的とする。発音の練習を重視しながら、耳に入ってくる中国語の意味を正確に理解し、自らの言葉として発信する能力を身につけていく。

授業の到達目標
基本発音を復習した後、ワンステップ上の中国語の文法を学ぶ。基礎的な語彙と初歩的な文法を繰り返し練習することによって、「聴く」「話す」を身につける。簡単な日常会話能力を身につけ、適切に使うことができる（DP）。

【DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習など。一週間に2時間以上の課外学習が必要。
映画、音楽、時事など中国文化に関することに興味を持つこと。

評価方法
平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%
口頭テスト　10%
筆記テスト50%
提出された課題について授業中にフィードバックをする。

教科書	参考図書
『初級中国語　教科書＋ドリル』白帝社	『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業終了後に質問を受け付ける。
初回授業の時にメールアドレスを周知する。

01	授業ガイダンスと一年次要点チェック
02	ドリルで復習
03	学校から遠いですか？前置詞 “从” “离”、時刻
04	中国語が話せますか？能力・許可を表す“能”、“会”、“可以”
05	中国に行ったことがありますか？経験を表す“过” 助動詞“想” “要” “打算”
06	それとも？選択疑問文“是，还是”？前置詞“跟” “和”
07	復習　会話練習
08	何をしているのですか？進行形の“在”、方向補語“来” “去”
09	昼ごはんを食べましたか？過去形の“了”
10	私が作った料理　名詞の修飾語（動詞）、完了した状況を強調する“是～的”
11	復習　会話練習
12	インターナショナルデイ
13	中国映画鑑賞
14	復習　口頭テスト
15	まとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:中国語と文化Ⅳ	担当者:韓 丹	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:初級中国語を習得した者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業は1年次中国語を習得した学生を対象とする。この授業は共通教育科目における「グローバル化に対応したコミュニケーションスキル関係」の「基礎科目」であり、「外国語の運用能力・表現能力」を育成し、「信念ある女性」としての基礎育成の一環としているものである。中国語と文化Ⅰ、Ⅱで身につけた発音に関する基礎知識を踏まえて、基礎的な語彙、文法を適切に運用し、簡単な日常会話能力を習得していくことを目的とする。発音の練習を重視しながら、耳に入ってくる中国語の意味を正確に理解し、自らの言葉として発信する能力を身につけていく。

授業の到達目標
基本発音を復習した後、ワンステップ上の中国語の文法を学ぶ。基礎的な語彙と初歩的な文法を繰り返し練習することによって、「聴く」「話す」を身につける。簡単な日常会話能力を身につけ、適切に使うことができる（DP）。

【DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業時間内で学んだ内容の復習と次の事前予習など。
一週間に2時間以上の課外学習が必要。
映画、音楽、時事など中国文化に関することに興味を持つこと。

評価方法
平常点（授業への参加、貢献度、宿題、小テストなど）　40%
口頭テスト　10%
筆記テスト　50%
提出された課題について、授業中にフィードバックをする。

教科書	参考図書
『初級中国語　教科書＋ドリル』　白帝社	『ことばの散歩道』Ⅰ～Ⅳ　白帝社ほか

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業終了後に質問を受け付ける。
初回授業にてメールアドレスを周知する。

01	前期要点チェック、単語の聞き取り練習
02	聞いて分かりましたか？　補語”懂”　“完”　”到”　”好”
03	お待たせしました。　使役と受身
04	我が家へようこそ　前置詞”把”　助動詞”要”
05	ドリル１～３０復習（１）
06	ドリル１～３０復習（２）
07	会話の練習と自己紹介
08	映画で学ぶ中国語(1)
09	映画で学ぶ中国語(2)
10	映画で学ぶ中国語(3)
11	DVD「中国語会話」(1)
12	DVD「中国語会話」(2)
13	DVD「中国語会話」(3)
14	要点整理、ポイントの復習
15	まとめと確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:韓国語と文化Ⅲ	担当者:都 恩珍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:韓国語と文化Ⅱを履修した者、またはそれ相当の能力があると認められる者に限る。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、高い教養に資する知識・理解する力、課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能を身につけるための授業です。いろいろな文法項目や表現を学びながらテキストを中心に進めますが、別配布の資料を使って文型練習をしたり、ペアーワークで会話の練習をしながらスピーキングに重点を置きます。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めます。韓国の文学作品を1冊以上読みます。単元ごとに確認テストを行います（AL)。

授業の到達目標
動詞・形容詞の活用をしっかり覚え、対話形式の会話文に慣れることができます（DP)。
韓国文化についての知識が増え、異文化に対する理解が深まります（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：音源を聞いて音読の練習をしてください。必要時間：約2時間
事後学修：単語帳に単語をまとめ、覚えてください。必要時間：約2時間

評価方法
授業参加態度　10%
確認テスト（6回）　60%
韓国文学作品の感想文　10%
その他の課題　10%
CR　10%
○フィードバックは、Moodleまたは授業中に行う。
○「授業参加態度」は、授業の参加姿勢や課題などの提出期限を守るかなどを考慮する。

教科書	参考図書
『ひかりとシフのどきどき韓国語』（都恩珍監修/李正子・金昭鍥著）朝日出版社 ⇒韓国語と文化Ⅱで使用したテキスト	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
単語力をつけましょう。アウトプットを意識しましょう。
連絡方法は授業中に提示します。
オフィスアワー：水曜日2限、月曜日3限

01	ガイダンス、韓国語と文化Ⅱの復習
02	確認テスト①　第7課　何に興味がありますか。　용体の練習（1)
03	第7課　何に興味がありますか。　용体の練習（2)
04	確認テスト②　第８課　このバス、北村に行きますか。いろいろな용体の練習（1)
05	第８課　このバス、北村に行きますか。いろいろな용体の練習（2)
06	確認テスト③　第9課　昨日シフさんと北韓山に行った。過去形の練習（1)
07	第9課　昨日シフさんと北韓山に行った。過去形の練習（2)
08	確認テスト④　文化体験（1)
09	文化体験（2)
10	第10課　トムヤンクンを食べに行きます。仮定・計画の表現練習（1)
11	第10課　トムヤンクンを食べに行きます。仮定・計画の表現練習（2)
12	確認テスト⑤　第11課　あとでsnsにあげますから。可能・約束の表現練習（1)
13	第11課　あとでsnsにあげますから。可能・約束の表現練習（2)
14	確認テスト⑥　第12課　新堂洞に行きましょうか。意向・勧誘表現の練習（1)
15	第12課　新堂洞に行きましょうか。意向・勧誘表現の練習（2)、文学作品感想文の提出、Course Reflection
16	なし

科目名:韓国語と文化Ⅳ	担当者:都 恩珍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:韓国語と文化Ⅲを履修した者、またはそれ相当の能力があると認められる者に限る。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、高い教養に資する知識・理解する力、課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能を身につけるための授業です。いろいろな文法項目や表現を学びながらテキストを中心に進めますが、別配布の資料を使って文型練習をしたり、ペアーワークで会話の練習をしながらコミュニケーション能力に重点を置きます。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めます。韓国の文学作品を1冊以上読みます。単元ごとに確認テストを行います（AL)。

授業の到達目標
文型や表現を使い分けながら、いろいろな場面でのやりとりができるようになります（DP）。
韓国文化についての知識が増え、異文化に対する理解が深まります（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：音源を聞いて音読の練習をしてください。必要時間：約2時間
事後学修：単語帳に単語をまとめ、覚えてください。必要時間：約２時間

評価方法
授業参加態度　10%
確認テスト（６回）60%
韓国文学作品感想文　10%
その他の課題　10%
CR　10%

○フィードバックは、Moodleまたは授業中に行う。
○「授業参加態度」は、授業の参加姿勢や課題などの提出期限を守るかなどを考慮する。

教科書	参考図書
『ひかりとシフのどきどき韓国語』（都恩珍監修/李正子・金昭鍥著）朝日出版社 ⇒　韓国語と文化Ⅲで使用したテキストです。	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
単語力をつけましょう。アウトプットを意識しましょう。
連絡方法は授業中に提示します。
オフィスアワー：水曜日2限、月曜日3限

01	ガイダンス、韓国語と文化Ⅲの復習
02	確認テスト①　第13課　やっぱり私には… 。形容詞の連体形表現の練習（1)
03	第13課　やっぱり私には… 。形容詞の連体形表現の練習（2)
04	確認テスト②　第14課　来週に試験をします。意志・推測表現の練習（1)
05	第14課　来週に試験をします。意志・推測表現の練習（2)
06	確認テスト③　第15課　カンプクスタイル。　不規則活用の練習（1)
07	第15課　カンプクスタイル。　不規則活用の練習（2)
08	確認テスト④　文化体験（1)
09	文化体験（2)
10	第16課　漢江に行ったら…。動詞の現在連体形の練習（1)
11	第16課　漢江に行ったら…。動詞の現在連体形の練習（2)
12	確認テスト⑤　第17課　野外授業。尊敬表現の練習（1)
13	第17課　野外授業。尊敬表現の練習（2)
14	確認テスト⑥　第18課　どこが悪いんですか。義務表現の練習（1)
15	第18課　どこが悪いんですか。義務表現の練習（2）、文学作品の感想文提出、Course Reflection
16	なし

2022年度シラバス

科目名:日本語表現Ⅲ	担当者:松浦 照子・鬼頭 祐太	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
「日本語表現」科目は、共通教育科目のうち基礎科目に属する。この科目は、大学生に必要な日本語運用能力の習得を目的とする。「日本語表現Ⅲ」では、実践を通して学術的な文章を書く力を養う。さらに、毎時おこなう課題を通して、ことばの知識を増やし、授業では、発表したテーマについて意見文を作成する。また、漢字テストを実施することで漢字の知識を増やす。

授業の到達目標
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能【DP】
○統合的な学習経験と創造的思考力【DP】
・文章表現上の基礎知識を知り、学術的な文章を書くことができる。
・資料の概要を正確に読みとることができる。
・ことばに関する知識を増やし、日常生活で活かすことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
漢字の学習に取り組むこと。可能な限り、新聞に目を通すこと。なお、授業内で課した課題について授業終了後までまたは課外での提出を求めることがある。

評価方法
授業への参加態度（課題の提出を含む）50%、漢字小テスト30%、確認テスト20%をふまえ、総合的に評価する。授業内の課題、漢字小テストについては授業内で適宜コメントすることがある。確認テストについては文章の添削や学生からの質問に応じる。

教科書	参考図書
松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 2級』	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席する場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。
・授業の進度や学生の理解度などに応じて授業計画の変更がありうる。

01	学科紹介　自己紹介
02	対話を深める
03	テーマ発表をする　テーマを決める
04	調査の方法
05	図書館で調べる
06	発表資料を作成する
07	発表会1
08	発表会2
09	発表会3
10	レポートの種類と書き方
11	レポートの構成
12	レポート作成
13	文献引用の方法
14	校正
15	レポートを完成させる
16	なし

科目名:日本語表現Ⅳ	担当者:松浦 照子・鬼頭 祐太	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
「日本語表現」科目は、共通教育科目のうち基礎科目に属する。この科目は、大学生に必要な日本語運用能力の習得を目的とする。「日本語表現Ⅳ」では、実践を通して考える力、話す力、書く力を総合的に高める。授業では、新聞記事等の複数の資料を用いて多角的にテーマについて考え、自分の見解を発表する。また、就職活動に備えて、日本語表現の力をつける。

授業の到達目標
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能【DP】
○統合的な学習経験と創造的思考力
・複数の資料を読み、テーマについて多角的に考えることができる。
・場面にあった適切な表現で、伝えるべきことがらを相手に伝えることができる。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
漢字の学習に取り組むこと。可能な限り、新聞に目を通すこと。なお、授業内で課した課題について授業終了後までまたは課外での提出を求めることがある。

評価方法
授業への参加態度（課題の提出を含む）50%、漢字小テスト30%、確認テスト20%をふまえ、総合的に評価する。授業内の課題、漢字小テストについては授業内で適宜コメントすることがある。確認テストについては文章の添削や学生からの質問に応じる。

教科書	参考図書
松浦照子 ほか『実践 日本語表現』ナカニシヤ出版、日本漢字能力検定協会『漢検10日間でできる練習問題 2級』	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・授業担当者との連絡は原則としてメールにておこなう。欠席する場合は、必ず授業担当者へ連絡すること。メールアドレスは授業にて通知する。
・授業の進度や学生の理解度などに応じて授業計画の変更がありうる。

01	グループディスカッション１　コラム
02	グループディスカッション２　国際問題
03	グループディスカッション３　教育問題
04	グループディスカッション４　社会問題
05	グループディスカッション５　時事問題全般
06	役割分担と効果的な討論の進め方
07	自分の意見をまとめて発表する
08	自分史を書く
09	自己PRをする
10	大学生活を振り返りアピールする
11	自分の成長を自覚する
12	将来に備えて　1対1の対話
13	将来に備えて　集団での対話
14	将来に備えて　就職作文 将来に備えて　800字の文章を作成する
15	将来に備えて　エントリーシートにまとめる
16	なし

2022年度シラバス

科目名:日本国憲法	担当者:早野 暁	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:不要		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　法の支配（法による統治）、それは自由社会を理想とする国家にとっての基本原理である。多数派による少数派の抑圧を防止する方便としての憲法の存在、裁判所の違憲立法審査権の目的を理解するための講義である。世界普遍の自由社会のための法技術の理解、あるいは、英米文化圏の法的な発想が東洋文化圏でどのように継受されたかを体得することを本講義は目的としている。

授業の到達目標
　国民個人の「自由」と国の統治権の行使の結果実現される「正義」というものが相反する作用の関係にあることを理解できる。【DP】基本権あるいは人権思想が発達してきた歴史上の経緯を知り、三権分立の目的が理解できること。権利や自由には内在的な制約があり、国民はこれを濫用せずに公共の福祉に反しない形で行使しなければならないことの意味を理解できる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業計画に示した各回の項目を事前に予習し、理解の困難な箇所を把握しておくこと(1時間）。授業の後には争点や論点が何か、つまり、何が問題となり何が解決策の基準となるかを整理できるように復習すること（1時間）。統治制度や法制度の基本理念を最終的には全体構造として捉えられるように、基本権各論を勉強すること（30分）。各項目で扱った判例（裁判所の判断）の射程範囲を理解するにとどまらず、判例の立場の当否を充分な理由を示して検討しうるだけの知見・素養を体得できることが望ましい。

評価方法
学期末定期試験（論述筆記試験）の得点で評価する。期末試験の解答のポイント等を履修者に告示してフィードバックをおこなう。

教科書	参考図書
森口佳樹ほか著『ワンステップ憲法』嵯峨野書院	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
できるだけ分かりやすく説明しますので、興味のある方は法学の分野に足を踏み入れてみてください。学科に関する質問であればムードルのメッセージにて質問を受けつけます。

01	憲法を学ぶ前に。なぜ法により国（社会）を統治するのか。
02	紛争解決の基準。法源の種類。
03	基本権と公共の福祉。法の下の平等。
04	思想・良心の自由。表現の自由。
05	財産権。営業の自由。職業選択の自由。
06	信教の自由。
07	勤労者の権利。労働基本権。
08	裁判を受ける権利。裁判員制度。
09	生存権。健康で文化的な最低限度の生活とは何か。
10	刑事司法制度。人身の自由。
11	戦争放棄と自衛権。
12	民主主義の長所と短所。議院内閣制。
13	憲法と条約。
14	保育事業と憲法。
15	全講義の総復習。
16	学期末試験

科目名:海外研修Ａ	担当者:井川 恵理・布 和・都 恩珍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限:パソコン使用		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解し、論理的な発信ができる能力」に関連している。[DP] 海外研修Aは、２週間以上の現地研修を原則とし、英語以外の言語および言語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とする。
A. Coure Description
担当者と各自相談の上、適切なプログラム、国、地域での語学研修を含め、文化・社会理解のための海外研修を行う。２～３週間、毎週１５時間以上（語学研修充実のためには週20時間以上が望ましい）の語学研修を含む内容を原則とする（４週間以上は「海外研修B」として登録するので注意すること）。
B. General Approach
説明会の後、研修を希望する学生は、各担当者（中国研修は布和、韓国研修は都、それ以外は井川）と面談の日程を決め、研修希望内容に合致したプログラムの検討を始める。担当者が推薦する旅行業者等を活用することが望ましい。各自が選んだプログラムの場合、その内容や担当旅行業者について確認が必要となる。
C. Relationship with Other Courses 中国語・韓国語・スペイン語関係の諸科目、International Relations, Asian Studies, American Studies, British Studies　等

授業の到達目標
本研修を実施する者は、各自、次の項目に基づき目標を定めること。
１．語学能力の向上 【DP】
２．滞在地における社会、生活、文化理解　【DP】
３．研修の準備を自分で行い、外国での実践による、自律した学修者としての自覚を持つ　【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本研修にあたっては、次の手順で準備、実践、事後課題提出・発表を行う。
１．研修実施地については各自が選択可能。大学が参加者を募る研修、信頼できる旅行会社等が提供するプログラムからの選択、独自に渡航先の教育機関等に直接申し込むことも可能である。いずれの場合も、どの言語をどのような環境で学ぶか、また安全性について事前に外務省HP等で確認した上で決定する。＜実施２ヶ月前までに＞
２．各自研修の目標を事前にたて、日誌、発表や報告書内にて、その達成度について確認する。
３．研修時間数　週１５時間以上　語学研修

評価方法
日誌40%、ポートフォリオ（計画書、研修後報告書　日本語1200字程度または英語1000語程度）30%、学内プレゼンテーション30% 各提出物へのコメントシート添付にてフィードバックを行う。

教科書	参考図書 外務省海外安全関連HP、大学の留学関連対策資料

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
説明会への出席、担当者との打ち合せを欠かさず行い、事前の準備、渡航先の安全確認を怠らないこと。

01	＜研修前の準備＞ 各自の目標に応じて、担当者とともに研修先を検討し、ポートフォリオ（計画書等）の記録を始める。 研修先国、機関等決定ののち、渡航準備に必要な手続きや書類を確認し、準備し、必要に応じて留学業者との打ち合わせを実施する。担当者・大学からの安全確認指導を受ける。たびレジ等海外での安全対策として必要な事項を確認し、各自準備する。 ＜研修中＞ 研修期間には学修を充実させるとともに、日誌での記録、報告書を準備し、帰国後の学内プレゼンテーションに備える。 ＜研修修了後＞ 次の学期に科目登録をする。課題を提出し、学内プレゼンテーションを実施する。 （オンライン研修についても、内容確認の上、本科目として認めることがある。）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

16	

科目名:海外研修Ｂ	担当者:井川 恵理・布 和・都 恩珍	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解し、論理的な発信ができる能力」に関連している。 海外研修Aは、英語以外の言語および言語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とする。
A. Coure Description
担当者と各自相談の上、適切なプログラム、国、地域での語学研修を含め、文化・社会理解のための海外研修を行う。４週間以上、毎週１５時間以上（語学研修充実のためには週20時間以上が望ましい）の語学研修を含む内容を原則とする（２～３週間を希望する場合は「海外研修A」として登録するので注意すること）。
B. General Approach
説明会の後、研修を希望する学生は、各担当者（中国研修は布和、韓国研修は都、それ以外は井川）と面談の日程を決め、研修希望内容に合致したプログラムの検討を始める。担当者が推薦する旅行業者等を活用することが望ましい。各自が選んだプログラムの場合、その内容や担当旅行業者について確認が必要となる。
C. Relationship with Other Courses 中国語・韓国語・スペイン語関係の諸科目、International Relations, Asian Studies, Oceanian Studies,American Studies, British Studies　等

授業の到達目標
本研修を実施する者は、各自、次の項目に基づき目標を定めること。
１．語学能力の向上 【DP】
２．滞在地における社会、生活、文化理解　【DP】
３．研修の準備を自分で行い、外国での実践による、自律した学修者としての自覚を持つ　【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎価値観・態度・志向性
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本研修にあたっては、次の手順で準備、実践、事後課題提出・発表を行う。
１．研修実施地については各自が選択可能。大学が参加者を募る研修、信頼できる旅行会社等が提供するプログラムからの選択、独自に渡航先の教育機関等に直接申し込むことも可能である。いずれの場合も、どの言語をどのような環境で学ぶか、また安全性について事前に外務省HP等で確認した上で決定する。＜実施２ヶ月前までに＞
２．各自研修の目標を事前にたて、日誌、発表や報告書内にて、その達成度について確認する。
３．研修時間数　週１５時間以上　語学研修

評価方法
日誌40%、ポートフォリオ（計画書、研修後報告書　日本語1200時程度または英語1000語程度）30%、学内プレゼンテーション30% 各提出物へのコメントシート添付によりフィードバックを行う。

教科書	参考図書 外務省海外安全関連HP、大学の留学関連対策資料

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
説明会への出席、担当者との打ち合せを欠かさず行い、事前の準備、渡航先の安全確認を怠らないこと。

01	＜研修前の準備＞ 各自の目標に応じて、担当者とともに研修先を検討し、ポートフォリオ（計画書等）の記録を始める。 研修先国、機関等決定ののち、渡航準備に必要な手続きや書類を確認し、準備し、必要に応じて留学業者との打ち合わせを実施する。担当者・大学からの安全確認指導を受ける。たびレジ等海外での安全対策として必要な事項を確認し、各自準備する。 ＜研修中＞ 研修期間には学修を充実させるとともに、日誌での記録、報告書を準備し、帰国後の学内プレゼンテーションに備える。 ＜研修修了後＞ 次の学期に科目登録をする。課題を提出し、学内プレゼンテーションを実施する。 （オンライン研修についても、内容確認の上、本科目として認めることがある。）
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

16	

2022年度シラバス

科目名:海外英語資格実習	担当者:石渡 雅之	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」を主として教育分野で発揮することを大きな目標として運用されるものである。例えば、TESOL-Cなどの資格を海外で取得する場合に、現地実習の時間数や、授業時間数などが単位取得のための条件を満たしていれば、本授業への単位申請が可能になる。

授業の到達目標
（資格ー教育分野の例）学校での語学指導について、高い教養と豊かな人間性を伴う理論や教授方法を効果的に組み合わせて、授業実践をすることができる。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教育分野の資格取得の場合は、前期の講義科目「英語学習と学習指導要領」が事前学修の場として活用可能である。その他の分野の資格を海外で取得する場合は事前に相談にくること。なお、授業外に行う学修時間として４時間以上を必須とし、単位申請にあたり、それを証明する必要がある。

評価方法
オリエンテーションへの参加態度（３０％）、現地実習の参加態度（２０％）、実習評価（４０％）CRP（１０％）資格が出された際の「現地の評価書」と自身のCRPを比較し、項目別にフィードバックを個別」指導の形で行う。

教科書	参考図書
使用しない。	適宜、目的に応じたものを授業内で紹介していく。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡方法は授業で指示する。

01	８月下旬、または２月下旬：キャンパスにおける実習直前オリエンテーション（３日間実施予定） ９月上旬、または３月上旬：現地実習（１４日間実施予定） ※本授業は講義・演習・実習が組み合わさっている授業である。講義９時間（国内・現地問わない）、演習７時間（現地）、実習６．５時間（現地）の合計２２．５時間をもって２単位を履修することが可能になるプログラムであり、それらを受けたことが証明できる書類の提出が必要となる。また、帰国後は自身の学びの内容を発表することが義務付けられる。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:現代社会と女性	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業は「自分を知る」科目群の一つである。授業では、現代の日本および世界の子ども、女性、環境の状況と保育についての現状を把握し、一見男女平等社会に見える現代社会で女性はどういう問題をかかえているのか。また、それらの問題が生じる社会・歴史的な背景を理解し、その問題解決の視点を保育に生かす方法について考察します。

授業の到達目標
　現代女性の結婚・出産・労働の現状を学び、女性のライフコースについて考察することで、保育・子育て支援サービスを利用する女性が置かれている社会的立場やその現状が説明できるようになる（DP◎）。女性としての主体的な生き方とは何かを理解し、具体的将来像を描けるようになる（DP○）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　単元ごとに配布するワークシートの作成を事後学修とします。学修にあたって、教科書の講読を準備学修として指示します。具体的には、各学生がワークシートに記述した内容をメールで期限内に提出します。授業期間中に３回、理解度評価（学んだ内容のふりかえりレポート作成）を行いますが、各理解度評価の前週にその内容についての解説を行います。

評価方法
評価は、理解度評価90%、毎授業後に提出するミニコメントシート（毎授業後のまとめ）10%にて行います。理解度評価の評点、毎授業後のまとめは提出後、評点を付けてメールにて返却します。

教科書	参考図書
嶋守さやか『孤独死の看取り』新評論	適宜、指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書として使用する資料を積極的に通読すること。授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは毎週火・水・木曜日のお昼休みとします。

01	オリエンテーション：講義概要の説明
02	女性とライフコース：仕事と結婚（１）映像資料から考える
03	女性とライフコース：仕事と結婚（２）映像資料から考える
04	第１回　理解度評価および解説
05	女性とライフコース：出産・子育て（１）プリント資料から考える
06	女性とライフコース：出産・子育て（２）映像資料から考える
07	第２回　理解度評価および解説
08	女性とライフコース：自己実現（１）教科書の事例検討
09	女性とライフコース：自己実現（２）映像資料から考える
10	第３回　理解度評価および解説
11	性別・性差・性役割（１）――　ジェンダー理解
12	性別・性差・性役割（２）――　性と暴力
13	映像資料にみる現代社会と女性（１）女性運動
14	映像資料にみる現代社会と女性２）グループディスカッション
15	第４回　理解度評価および解説
16	なし

2022年度シラバス

科目名:女性とジェンダー	担当者:中村 奈津子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業は「自分を知る」科目群に位置づいています。授業では、ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差、性別）を切り口に、自己理解と他者理解を深めます。さらに、ジェンダーに関わる身近な社会課題を自分事として捉え、それらとどう向き合うことができるかについて、考察を深めます。資料(映像資料含む）を用いた講義を中心とし、グループワークなど参加型の授業も取り入れますので、積極的な参加を歓迎します。【ＡＬ】

授業の到達目標
①ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差、性別）について理解し、ジェンダーの視点をもって人と社会を見ることができるようになります。
②ジェンダー・アイデンティティやセクシュアリティについて学び、自己理解・他者理解を深めます（DP）。
③現代社会の抱えるさまざまな問題（家族、労働、ケア、暴力、格差など）に対して、ジェンダーの視点をもって考える力を身につけます（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前にワークシートに取り組んだり、資料（文献資料含む）を読んでいただくなど、単元ごとに指示します。ジェンダーにかかわる問題は、日ごろ「当たり前」と思っている常識や慣習の中に深く入りこんでいるので、自分の問題として気づき、考えることが大切です。性別や性について、身の回りで「当たり前」と思ってきたこと、思われていることに注目し、つねに「どうして？」と考える姿勢を大切にしてください。

評価方法
期末レポート（6割）、および授業ごとに提出するコメントシートの内容（4割）で評価します。いずれも授業内容の理解度と、当事者性をもった考察を重視します。毎回のコメントシートに対しては、次回の授業にてフィードバックを行います。

教科書	参考図書
指定なし。講義内容に応じて配布する資料がテキストとなります。	はじめてのジェンダー論（加藤秀一著　有斐閣）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・各回に使用した資料は、可能な限りMoodleにアップします。
・教員の連絡先は授業で開示します。

01	オリエンテーション
02	ジェンダーとは何か：社会のなかで、ジェンダーはどのように形成されているか
03	ジェンダー平等をめぐる歴史（１）：フェミニズム運動と女性学
04	ジェンダー平等をめぐる歴史（２）：ジェンダー平等／男女共同参画社会をめざす、国内の動き
05	多様な性：ジェンダー・アイデンティティとセクシュアリティ
06	家族とジェンダー（１）：変わりゆくパートナーシップ・結婚・家族
07	家族とジェンダー（２）：家事・育児・介護などのアンペイドワークとケア概念
08	暴力とジェンダー：親密な関係において起こりうる暴力（DV、デートDV）
09	労働とジェンダー（１）：雇用における性差別と、労働に関する法制度
10	労働とジェンダー（２）：現代社会の労働問題
11	ハラスメント：職場や学校における、ジェンダーに由来するさまざまなハラスメント
12	メディアとジェンダー：メディアにおけるジェンダー問題、アンコンシャスバイアス
13	防災・災害復興とジェンダー：ジェンダーの視点をもった防災・災害復興
14	ジェンダーを表現する
15	ジェンダー平等をめぐる、国際的な動き（CSR／SR、SDGs）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:女性と家庭教育	担当者:金子 晃之	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　家庭教育の作法ではなく、家庭での親子の関わり方の基本を学び（桜花学DP1）、家庭教育のポイントを乳幼児から青年期までの発達という点から機能的に捉えて考えていく（桜花学DP3）。（授業方法は、可能であれば毎回、４～６人で１グループとなり、テキストを読みながら提示された課題を皆で考えて取り組んでいく。無理なようであれば、通常の一斉授業の形態で行う ）

授業の到達目標
　アタッチメント、母性・父性の役割、自立というものについて理解する（桜花学DP1）。そして女性が母親として次世代とかかわる際、何を成長の軸に据えなければならないのかを展望する思考力を身に付ける（桜花学DP3）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　毎回指示するが、基本的に、次回の資料を開示するので、与えられた課題について学習しておくこと（事前学修）。授業後は、書き込んだ資料を読み直し、ポイントを振り返りながら、授業ノートを提出すること(事後学修)。

評価方法
　授業ノート（80点）、学期末レポート（20点）を合計して100点満点で評価する。授業ノートのフィードバックについては授業内で行う。

教科書	参考図書
Moodleに資料を添付する。	授業時に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、パソコンを持参して下さい。
　オフィスアワー　木曜日　昼休み。　　メールアドレス　t-kaneko@ohkagakuen-u.ac.jp

01	家庭での母性と父性
02	日本社会での家庭のしつけ・学校教育・社会化について考える①西洋型
03	日本社会での家庭のしつけ・学校教育・社会化について考える②日本型
04	物語を失った若者たち
05	子どもを取り巻く社会的環境
06	現代の母子関係の問題
07	分離個体化
08	葛藤モデルと欠損モデル
09	母子関係の距離感
10	アタッチメント
11	アタッチメント研究
12	自分化と物語化
13	社会図式の構造
14	社会図式の形成
15	家庭教育のポイントをまとめる
16	学期末レポート

科目名:芸術の世界	担当者:基村 昌代・田端 智美・石山 英明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭（美術）の経験を生かし、高等学校との学びの継続を行う。また芸術の教養を身につけるよう、美術鑑賞・音楽鑑賞・ICT利用等も取り入れながら、体験的に学ぶことができるようにする。【ＡＬ】

本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本授業では、音楽・美術等、芸術に関して多角的に幅広く講義し「芸術とはなにか」を追求する。芸術の細かな知識を身につけるのではなく、世界共通の文化として概略的に理解・経験する。幅広い知識、高い教養、豊かな人間性をそなえるべく、深い真理の探究ことを目標とし学修する。音楽作品と美術作品を様々な形式で鑑賞し、講義と併せて授業を展開する。

授業の到達目標
①芸術とは何かを自分なりに理解できるようになること。【DP】
②芸術を実際に体感・鑑賞し、芸術に対する理解を深める。【DP】
③芸術を鑑賞する力や方法について考察し、身につける。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
美術館・音楽会等に参加して芸術鑑賞を自らすすんで行うこと。

評価方法
レポート評価(50%)、毎回の授業の終わりのリフレクション等（省察・振り返り：ミニッツペーパー等を記述）への対応（30%）、授業への参加態度(20%)を対象として総合評価を行います。課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書
適宜プリントを配布します。	授業内で適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
「芸術」は幅の広い概念です。普段から「芸術」に興味を持って、自らの幅を広げましょう。連絡はisiyama@ohkagakuen-u.ac.jpまで。

01	ガイダンス・オリエンテーション	（基村・田端・石山）
02	総合芸術について	（基村）
03	ミュージカル「サウンドオブミュージック」が伝える様々な「愛」	（基村）
04	オペラ「カルメン」からみる女性像	（基村）
05	バレエ「ピーターと狼」の登場人物の個性とライトモチーフ	（基村）
06	モナリザはだれ？　レオナル・ド・ダビンチを中心に	（田端）
07	ピカソは本当に上手なの？　ピカソを中心に	（田端）
08	絵と会話してみよう！子どもの美術鑑賞を中心に	（田端）
09	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう①（バロック・古典派①）	（石山）
10	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう②（古典派②ロマン派①）	（石山）
11	音楽史に沿ってクラシック音楽を学ぼう③（ロマン派②・近現代）	（石山）
12	音楽会・又は音楽を楽しむ人々と音楽にこだわる芸術家	（石山）
13	美術館に行ってみよう	（田端）
14	美術館に行ってみよう	（田端）
15	まとめ・レポート提出	（基村・田端・石山）
16	なし	

2022年度シラバス

科目名:文学の世界	担当者:太田 昌孝	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義は桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目である。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものである。本講義では､前述の内容を踏まえ、主に宮沢賢治の作品分析及びその考え方、視点、生き様などを学ぶことにより、言語芸術の持つ特性について学修し、人間性を涵養する。

授業の到達目標
① 文学の基礎知識を習得する。② 小説や詩という文芸を学ぶことにより、言語感覚を錬磨し、作品鑑賞の力を習得する。(DP)
② 科学者・宗教者・教育者としての側面を持つ宮沢賢治の作品を学ぶことにより、幅広い教養と知識を獲得する。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
① 言語表現一般に興味関心を抱き、努めてその鑑賞及び読解を試みる。② 実際に創作する機会を持つように努める。

評価方法
講義に取り組む姿勢、(10)ミニレポート・創作(不定期/20)、定期試験(レポート/70)によって評価する。・ミニレポート・創作はA.B.Cの評価を付けて返却し、定期試験(レポート)についてもコメントを付して返却する。

教科書	参考図書
ちくま文庫「宮沢賢治全集7」	『宮沢賢治の文学と法華経』・分銅淳作・水書房

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席をしないように。連絡方法については講義で指示する。

01	講義概説(講義の目標とその概説)
02	宮沢賢治入門1(宮沢賢治の生涯)
03	宮沢賢治入門2(宮沢賢治と岩手)
04	作品鑑賞1(宮沢賢治の詩1)「雨ニモ負ケズ」
05	作品鑑賞2(宮沢賢治の詩2)「稲作挿話」
06	作品鑑賞3(宮沢賢治の詩3)「冬のスケッチ」
07	作品鑑賞4(宮沢賢治の詩4)「春と修羅」(序)
08	作品鑑賞5(宮沢賢治の詩5)「永訣の朝」
09	作品鑑賞6(宮沢賢治の詩6)「青森挽歌1」
10	作品鑑賞７(宮沢賢治の詩7)「青森挽歌2」
11	作品鑑賞8(宮沢賢治の童話1)「どんぐりと山猫」
12	作品鑑賞9(宮沢賢治の童話2)「虔十公園林」
13	作品鑑賞10(宮沢賢治の童話3)「ざしき童子の話」
14	作品鑑賞11(宮沢賢治の童話4)「セロ弾きのゴーシュ」①
15	作品鑑賞12(宮沢賢治の童話5)「セロ弾きのゴーシュ」②
16	なし

2022年度シラバス

科目名:心の探求	担当者:森山 雅子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教養科目です。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するというものです。本授業では、目には見えない「こころ」を心理学者がどのように可視化し、人間を理解してきたか説明します。「こころ」とは何かを考え、「心を持つ人間」として、他者と自分をみつめる力を養い、心豊かな人間になる道を探ります。

授業の到達目標
１．心理学の基礎的な考え方やとらえ方を、さまざまな理論や概念、データを通して学び、理解することができる（DP）。
２．「こころ」についてのとらえ方を学び、自分自身の「こころ」や身の回りの「こころ」に関する現象について、理解し、言語化できる（DP）ようになる。３．心理学の理論から他者や集団、社会自体を捉え、説明する（DP）ことができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Moodleを通して、授業の事前・事後課題を課します。
事前課題は、準備学修として、その回のトピックと自分自身を照らし合わせ考える課題です。授業の前日までに実施し提出してください。事前課題の内容を授業中に振り返りながら授業を進めます。
事後課題は、授業後に課す課題です。その回の授業の確認テストや振り返りレポートを課します。授業後提出期限までに速やかに提出してください。
全15回で60時間の授業外学習を要します。

評価方法
定期試験55%、事前事後課題の提出物45%
課題のフィードバックについては、次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についての解説や学生のよくできた答案等の紹介する。

教科書	参考図書
使用しません。毎回資料を配布します。	授業時に適宜紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
事前課題を通して自分自身の考えを固めたうえで、授業を受講しましょう。そうすると、心理学の理論が自分のこととして頭に入ってきやすくなると思います。連絡先は授業でお伝えします。

01	イントロダクション一心理学とは。心理学の歴史と方法論
02	心の進化一進化心理学からヒトの特異性について学ぶー
03	心の発達一発達心理学（1）乳幼児
04	ライフサイクルー発達心理学（2）青年期から老年期まで
05	動機づけと情動一やる気や感情のしくみを知る
06	性格一性格の仕組みや性格の病理について知る
07	知能一知能の仕組み、知能テスト、創造性
08	ストレスとメンタルヘルスー臨床心理学（1）ストレスや心の健康について知る
09	カウンセリングと心理療法一臨床心理学（２）カウンセリングについて知る
10	知覚一人の知覚の仕組みについて知る
11	脳と心一脳科学　脳の仕組みと心のかかわりについて知る
12	記憶一私たちの記憶の仕組みについて知る
13	学習一条件づけやさまざまな学習について知る
14	社会のなかの人一社会心理学（１）ソーシャルアニマルについて考える
15	心と社会一社会心理学（２）さまざまなジレンマ課題について考える
16	定期試験

2022年度シラバス

科目名:生き方の探求	担当者:井上 文人	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業は、桜花学の「人間を知る」という群に配置された大学共通教育科目です。この群の内容は、芸術や文学、心理学、哲学を通じて人間や人間の心の諸相を把握するものです。本授業は、〈世界の在り方〉とその中での〈人間の生き方〉を考察する学問である「哲学」に基づいて、「信念ある女性を育成する」ために、人間が生きる日常の中の様々な生き方の諸問題の能動的学修を通じて、〈自己の生き方を探求する〉ことを本授業の概要と方法とします。

授業の到達目標
①〈人間と人間の心〉の本質的な理解を獲得します（DP）。
②〈人間の生き方〉の諸問題を体系的に理解します（DP）。
③〈自己の生き方〉についての根本的な考察能力を能動的に修得します（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：本授業で扱われる〈人間の生き方の諸問題と課題〉の継続的で日常的な準備学修：２時間。
事後学修：本授業で扱われる〈人間の生き方の諸問題と課題〉の継続的で日常的な事後学習：２時間。

評価方法
成績評価は、①授業への参加態度30％と②期末レポート70％の配分にもとづいて行います。
授業終了後、全体的な講評を授業アンケートのコメントフィードバック時に一緒に紹介します。

教科書	参考図書
教科書はありません。毎回資料を配布します。	授業中に指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
〈人間の生き方の諸問題と課題〉は継続的で日常的な考察が重要です。生き方を自覚化しましょう。
連絡先は授業で開示します。

01	授業ガイダンス
02	自己分析アンケート
03	「シンデレラ・コンプレックス」と女性の生き方
04	現代を生きる女性達の生き方の問題
05	「ピーターパン・シンドローム」と男性の生き方
06	現代を生きる男性達の生き方の問題
07	現代を生きる人間の生き方の課題と哲学
08	『君たちはどう生きるか』
09	「コペル君」と「世界観」
10	『ぼくを探しに』
11	『ビックオーとの出会い』
12	「自分探し」とは何か？
13	『〈未来〉は〈いま〉にある』他
14	『私の〈仮面〉』他
15	『〈自分創り〉は〈他者創り〉』他・まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:生活と経済	担当者:茶谷 淳一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:なし		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本講義「生活と経済」は、桜花学の中の「社会を知る」科目群に位置付けられている。社会の土台を形成する経済に関する知見を得ることは、社会に寄与することができる「信念ある女性」となるための必須教養の一つである。授業は基本的に講義形式で行い、現代日本の経済が直面し国民生活に大きく影響している諸課題について説明する。また、調べたり、考えたり、意見をまとめていただきます。それを発表していただくこともある。ノート提出については次回講評する。定期試験はmoodleに模範解答を1週間程度掲載する。

授業の到達目標
経済の基本的なしくみや概念について知ることができる。（DP）また自分たちの生活が経済活動と密接に結びついていることを理解することができるようになる。（DP）また、自分の日常生活が経済の一部であり、わたしたちの行動が社会のあり方を決定しているのだという自覚をもつとともに、社会のあり方について興味を持ち考えるようになる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日常的に、経済・社会関連のニュースに関心を払ってほしい。新聞やネットでニュースを読むこと、および、授業での報告準備、復讐のための事後学修として、４時間程度の学修時間が必要である。

評価方法
授業への参加（ノート）20%、定期試験80%
ノート提出については次回講評します。定期試験はmoodleに模範解答を1週間程度掲載します。

教科書 使用せず	参考図書 鎌田雄一郎　ゲーム理論入門の入門　岩波新書　2019年。阿部誠　行動経済学　新星出版　2021年などのほか、授業で用いた資料も。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業時間外での質問は、オフィスアワーに研究室で受け付ける。最良のテキストはニュースや新聞を読むことである。重要な経済事象が生じた場合は予定を変更し授業で取り上げる。よって予定通りすすまないこともある。

01	授業の目的と方法　経済学が社会を考える手掛かりを与えてくれます
02	トイレットペーパーの経済学～なぜ行列に並ぶのか①
03	トイレットペーパーの経済学～なぜ行列に並ぶのか②
04	トイレットペーパーの経済学～なぜ行列に並ぶのか③
05	トイレットペーパーの経済学～なぜ行列に並ぶのか④
06	トイレットペーパーの経済学～なぜ行列に並ぶのか⑤
07	女性の貧困①～ビデオ「調査報告　女性たちの貧困」をみる～
08	女性の貧困②・女性の就労と結婚を経済学で考える①
09	女性の就労と結婚を経済学で考える②
10	女性の就労と結婚を経済学で考える③
11	女性の就労と結婚を経済学で考える④
12	現代日本社会の貧困を考える①
13	現代日本社会の貧困を考える②
14	育児の経済学①
15	育児の経済学②・まとめ～豊かに生きるために
16	定期試験

科目名:地域社会	担当者:嶋守 さやか	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は「社会を知る」の科目です。授業ではまず、人々が生まれ、育ち、学び、働き、自らの子ども達を育て、自己を実現していくというプロセスと、人々が出会う人間関係と地域の問題を考察します。また、「地域社会で生きていくための課題」を映像資料等により実践的に学びます。

授業の到達目標
　授業では、現代社会の成り立ちや社会問題が問題化されるプロセスを知ること。また、自分自身が生きる地域社会についての理解を深めること（DP◎）。そして、社会全体における問題の構造を見通せる力を育成・獲得することを学修の到達目標とします（DP○）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　単元ごとに配布するワークシートの解答を事後学修とします。授業に参加し、各学生がワークシートに記述した内容をメールで提出します。返却されたワークシートの確認を事後学修として行います。授業期間中に３回、理解度評価（学びについてのレポート作成）を行いますが、各理解度評価の前週にその内容についての解説を行います。

評価方法
評価は、理解度評価90%、ワークシート（毎授業後のまとめ）10%にて行います。理解度評価、ワークシートとも添削・評定をつけて返却します。

教科書	参考図書
嶋守さやか『寿ぐひと　原発、住民運動、死の語り』新評論、2020年	適宜指示します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この科目に関わる基礎的な知識を有すること。授業内容に関する重要な連絡は、授業時間中に適宜行います。オフィスアワーは毎週火・水・木曜日のお昼休みとします。

01	授業オリエンテーション（授業目的、授業の進め方等についての説明）
02	事例から考察する地域社会運動
03	教科書の事例から考察する地域社会運動
04	映像（住民運動）から理解する地域社会
05	第１回　理解度評価および解説
06	事例から考察する地域福祉
07	教科書の事例から考察する地域福祉
08	映像から考察する地域福祉
09	映像から考察する社会福祉援助の現場
10	グループディスカッションおよびプレゼンテーション③
11	第２回　理解度評価および解説
12	映像資料から考える地域社会の課題（前編）
13	映像資料から考える地域社会の課題（後編）
14	教科書の事例から感会える 教科書の事例から考える地域社会の課題
15	第３回　理解度評価および解説
16	なし

2022年度シラバス

科目名:人間と歴史	担当者:小久保 嘉紀	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「昔話などから見る日本史」
〈授業概要〉
　神話・昔話・童謡・絵本・詩・現代メディアなどに反映される歴史的背景を読み取り、日本史の各時代がどのようなものであったのかについて考察する。それを踏まえ、各時代の子供の生活や、海外文化の導入の歴史についても考える。
　なお、この授業は桜花学の「社会を知る」分野に位置する。
〈授業方法〉
　※オンライン授業（オンデマンド型）申請予定。

授業の到達目標
　昔話などについて、ストーリーだけでなく、そこにどのような歴史的背景があるのかを理解する（「高い教養に関する知識・理解」）。また、各時代の昔話を比較することで、時代ごとに異なる多様な価値観や人々の姿勢、そして各時代の社会が目指した志向性についても理解する（「価値観・態度・志向性」）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
〇価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　準備学修：授業計画で挙げた昔話の内容を把握しておくこと。
　事後学修：授業で挙げた参考文献を読んでみるとよいでしょう。

評価方法
　期末レポート70％＋毎授業後の小テスト30％

〈フィードバックの方法〉
　期末レポートについては、採点返却の上、総評を行う。また、授業後の小テストについては、次回の授業の際に解答についての解説を行う。

教科書
　無し。

参考図書
・稲田浩二・稲田和子編『日本昔話ハンドブック』（三省堂、2001年）
・小澤俊夫『昔話のコスモロジー―ひとと動物との婚姻譚―』（講談社学術文庫、1994年、初出1979年）
・古川のり子『昔ばなし―あの世とこの世を結ぶ物語―』（山川出版社、2013年）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　コロナ禍の中での授業ですが、心と体の健康を維持して、ともにがんばりましょう。

01	オリエンテーション
02	古代社会と日本神話
03	縄文～古墳時代―「桃太郎」とヤマト朝廷―
04	飛鳥・奈良時代―「浦島太郎」と社会不安―
05	平安時代―「かぐや姫」と貴族社会―
06	鎌倉時代―「金太郎」と武士社会―
07	南北朝・室町時代―「一寸法師」と応仁の乱―
08	戦国時代―「猿カニ合戦」と報復―
09	江戸時代①―動物話と江戸社会―
10	江戸時代②―妖怪話と江戸社会―
11	明治・大正時代―童謡と近代日本―
12	クリスマスの歴史について
13	戦前・戦時中の社会―絵本と軍国主義―
14	戦後の社会―詩と戦後復興―
15	現代社会とメディア
16	無し

2022年度シラバス

科目名:異文化理解	担当者:加藤 あや美	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　この科目は桜花学「世界を知る」科目群に位置付けられている科目です。グローバル社会への理解を深めるという目標をもとに、異文化という観点からコミュニケーションの具体的な事例を取り上げ、異なる文化背景を持った人にどのように伝え、交わるか、また、どのように受け入れ、理解するのかについて考えていきます。さらに、多文化共生社会に中で、いかに円滑に共存できるかについて考察していきます。Active Learning型の授業を実践するため、グループワークやディスカッションを積極的に取り入れていきます。【AL】

授業の到達目標
　異文化理解や異文化コミュニケーションの諸相に関連する文献を読み、それぞれにおける問題点を文化、言語の関連の枠組みでとらえ、考察を加えることを目指す。(DP)実際に異文化と接触した際に、学んだ知識をもとに適切に行動する力を身につける。また、異なる文化背景の人々を受け入れることができる素地を養う。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日頃から新聞などに目を通し、国際的に問題となっている事柄に関心を持つようにしましょう。また、日常的に様々な人とのコミュニケーションも大切にし、人との関わりに高い意識を持つようにして下さい。さらに、授業内で紹介する異文化コミュニケーションの事例をもとに、自分の周りにある身近な事例をピックアップできるようにしておきましょう。

評価方法
グループワーク・ディスカッション等を含めた授業への参加度　20%　授業レポート　20%　小テスト・小レポート　20%　期末レポート　40%　次回の授業時に前回授業における授業コメントに基づいたフィードバックを全体に行う。

教科書	参考図書
適宜、プリントをMoodle上にアップします。	授業中に紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ディスカッションを多く取り入れていくため、積極的な授業への参加を望みます。発表や授業レポートにおいて、自分の考えを明確に述べることができるよう努力しましょう。(オフィスアワー：木曜昼休み)

01	オリエンテーション
02	異文化コミュニケーション①　文化とは何か
03	異文化コミュニケーション②　自文化への気づき
04	異文化コミュニケーション③　様々な異文化接触
05	異文化理解①　言語と文化の密接な関係
06	異文化理解②　高文脈文化と低文脈文化
07	異文化理解③　社会と言語のつながり
08	異文化理解④　世界における言語使用の現状
09	多文化共生①　非言語コミュニケーション
10	多文化共生②　コードスイッチングとバイリンガリズム
11	多文化共生③　多文化社会について考えよう
12	多文化共生④　多文化共生のためにできること
13	まとめ①　大学生の学びとコミュニケーション（基礎編）
14	まとめ②　大学生の学びとコミュニケーション（応用編）
15	まとめ③　大学生の学びとコミュニケーション（実践編）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:日本の文化	担当者:布 和	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　これまで、日本或いは日本人について多くの研究があり、そして作者には日本人のほか、外国人も多い。日本或いは日本人論は、日本文化論でもあり、日本文化を理解するに日本或いは日本人を理解しなくてはいけない。本授業は、これらの研究書の一部を取り上げ、学生と一緒に日本の文化について再認識し、議論を通して日本文化を再発見する。本授業は、また「桜花学」の「世界を知る」という科目群に位置られている。

授業の到達目標
　日本或いは日本人に関する論（DP）を読んで、自身の理解を整理した上、プレゼンテーションを通して自らの意見（DP）を発信できることと、グループディスカッションにおいてしっかり自身の意（DP））を主張し、また、これらの意見を課題としてのレポートに反映できること。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解　○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業用の資料を事前に読み、またプレゼンテーションを作成するために授業前後で1時間半の学習時間が必要である。

評価方法
　授業への参加意欲（30%）・プレゼンテーション　(30%) 及びレポート（40%）で評価する。なお、プレゼン後の質疑応答時間を以ってフィードバックとしている。

教科書	参考図書
教科書はないが、プリントを配布する。	授業中に紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　教員の連絡先やオフィスアワーを授業中に知らせる

01	授業紹介（世界と日本の社会と文化(資格関連)の異同を中心に日本の文化を紹介する）
02	『日本人論・日本論の系譜』について
03	『外国人による日本論の名著』について
04	『日本人の意識構造』について
05	『タテ社会の人間関係』について
06	『日本人の発想、日本語の表現』について
07	『漢字と日本人』について
08	学生による第１回プレゼンテーション
09	『菊と刀』の紹介と討議①
10	『菊と刀』の紹介と討議②
11	『20世紀前半の中国留学生の日本記憶』の紹介と討議
12	『日本人の質問』の紹介と討議①
13	『日本人の質問』の紹介と討議②
14	『喪失の国、日本』の紹介と討議
15	学生による第2回プレゼンテーション
16	なし

2022年度シラバス

科目名:国際関係論	担当者:髙橋　一郎	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は桜花学「世界を知る」科目群に位置付けられている科目です。日常生活で当たり前で正しい(と思われる)事でも、他の国、他の地域に行けば逆に悪い事(と思われること)があります。世界には様々な文化、様々な社会が存在します。全く相反する異なる価値観が存在したとしても私たちは共存していかなければ行けません。そうした国際社会の現状とルールがどうなっているか、を様々な事例から勉強します。毎週最新のニュースを扱いながら、様々な今までの事例を考え、幅広い視野を身につけるようにします。映像と事例を多数示し授業を進めます。様々な実例を見ながら考えながら、授業を進めます

授業の到達目標
様々な異なった価値観を学びます。その中から自分の考え方、そして広義の意味では自分の生き方を考える機会となるように世の中の動きと今を生きている私たちを取り巻く国際・国内の社会情勢を同時進行的に学び社会に出てから通用する知識を身につけることを目標とします。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
常に社会に目を向け、日々のニュースを新聞・テレビ・インターネット等で見る習慣を身につけるだけでなく、そこから見えてくるもの、内包しているものを見つける姿勢が期待されます。

評価方法
授業毎の平常点レポート40%　　期末試験　40%　　年末課題　20%
課題・提出物・質問等へのフィードバックは、授業時間内・メール・次回授業等に行う。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ノンフィクション分野の読書　時事を扱ったテレビ番組、などを通して自主的に学習することが望ましい。

01	授業概要　（以下の計画は国際状況に応じて講義の順序は変更の場合あり）
02	なぜ争い(戦争)が起きるのか？
03	国際社会におけるルール　～　価値観の違い
04	条約とは　・20世紀映像の時代①（20世紀初頭）
05	国際社会で求める共通性とは　・20世紀映像の時代②（第一次世界大戦）
06	クーデターとは
07	Protocol（プロトコール）
08	20世紀映像の時代③（第二次世界大戦）
09	国際援助の一例～日本の海外援助
10	国際社会における人的交流
11	国際機関はどのように機能しているのか
12	20世紀映像の時代④（ベトナム戦争　地域紛争）
13	最新国際時事分析①
14	国際社会と難民　民族の自立
15	20世紀映像の時代⑤（植民地の自立）
16	期末試験

2022年度シラバス

科目名:グローバル社会と宗教	担当者:笹生 友広	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　この授業は桜花学園大学のディプロマポリシーに謳う「幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成」することに直結する科目であり、桜花学「世界を知る」に位置付く。
　グローバル社会において、事の大小を問わず諸現象・事象に宗教が少なからずかかわっている。世界の歴史、地理、観光、文化、芸術、政治、経済、風習等について、宗教を横軸として考察し、知識を習得することにより、広い視野を持ち、異文化や共生に理解を示す優れた人材となることを目指す。
　本授業においては、宗教をキーワードとするが、いかなる宗教も支持、批判するものではない。
　グループ学習やグループ発表などを行うと共に、動画、画像を多数利用してわかりやすい講義を心掛ける。毎回のレポートで提出された課題、質問に対して授業の初めにフィードバックする。【AL】

授業の到達目標
① 世界５大宗教や神道の概略を理解し、説明できるようになる
② 日本における仏教（宗派ごと）、その他の宗教の概要を理解し、説明できるようになる
③ 世界の歴史、地理、観光、文化、芸術、政治、経済、風習等について理解し、宗教との関連性を含め
　多様性への理解を深める（DP）
④ 自分の考えと違うものに対しての理解と許容する心を育み、自らも成長する（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で習ったことをヒントに、授業外では宗教や現代社会についてさらに研究を深める。
準備学修：テキスト資料に目を通しておく。授業内容について様々な疑問が浮かぶため、それを書き留めて毎回のレポートで質問する。
事後学修：テキストを見直し、まとめる作業が有効。課題を出すが、自ら学ぶ姿勢が臨まれる。
２単位科目なので１回の授業に対して４時間程度の予習、復習が望ましい。

評価方法
授業態度（30%）、毎回のレポート（30%）、期末レポート（40%）
各レポートについては、次回の授業日で学生の特徴的な見解や誤解についての解説、特によくできた答案、論文等の紹介をする。

教科書	参考図書
プリントを配布します。	授業にて紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301号室
毎回のレポートで質問などは随時受け付けます。個別質問はメール、オフィスアワー等を活用してください。

01	09/27 授業ガイダンス　宗教と信仰についてのアプローチ
02	10/04 キリスト教：神様とキリスト
03	10/11 キリスト教：カトリックとプロテスタント
04	10/18 ユダヤ教・イスラム教：どのような教えがあるのか
05	10/25 ヒンズー教・仏教：どのような教えがあるのか
06	11/01 仏教：日本の宗派・寺院と仏様
07	11/08 神道：伊勢神宮と八百万の神
08	11/15 神道・その他：神社と日本書記・儒教、その他の宗教について
09	11/22 世界と宗教：文化（習慣・風習・マナー・お祭り・スポーツ・食事）①
10	11/29 世界と宗教：文化（習慣・風習・マナー・お祭り・スポーツ・食事）②
11	12/06 世界と宗教：芸術（世界遺産、音楽、建築、彫刻、絵画、音楽）①
12	12/13 世界と宗教：芸術（世界遺産、音楽、建築、彫刻、絵画、音楽）②
13	12/20 日本と宗教：芸術（世界遺産、音楽、建築、彫刻、絵画、音楽）③
14	01/10 世界と宗教：政治・経済、紛争・暴力・差別
15	01/17 まとめ（多様性と共生、心のよりどころについて）
16	01/24 なし

2022年度シラバス

科目名:スポーツ健康論	担当者:寺田 恭子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業では、幅広い知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をかねそなえた優れた人材を育成することを基とし、より良く生きるために再考すべき課題を健康とスポーツというキーワードから発見・探求していく。
生涯に渡って心身共に健康な生活を送ることができるための知識と態度の習得は、社会を構成する一員として、社会の発展に寄与することができると考える。

授業の到達目標
健康とスポーツというキーワードを通し様々な課題解決に取り組むことは、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにつがる(DP)。より良い生活行動習慣と考え方を探り、そのプロセスを通して豊かな人間性を自ら育て、現代における多様な課題を発見、分析、解決できる力を醸成する(DP)。本授業ではこのような総合的な力を身につけ、広く社会の発展に寄与し貢献できる人材となることを目標とする(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日頃からスポーツや健康に関する情報について関心をもち、新聞やニュースをよく読んだり聞いたりすること。

評価方法
受講態度・提出課題(毎回&特別レポート)評価:40%　筆記試験結果:60%　以上を総合して評価する。フィードバックは毎回のリアクションペーパーを使用して行います。

教科書	参考図書
特になし。その都度プリントを配布する。	各教員がその都度連絡する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義内では、みなさんの意見･体験などを発表することや、簡単な実技等を行う場合もある。積極的に参加すること。連絡手段はメールを使用します。

01	オリエンテーション　健康とスポーツを学ぶにあたって
02	自分の身体を見つめ直そう　女性の身体とホルモン
03	女性が直面する健康上の問題について① 妊娠・出産・中絶　更年期障がい
04	女性が直面する健康上の問題について② 病気（乳がん　など） 女性が直面する健康上の問題について② 病気（乳がん　子宮頸がんなど）
05	エイズの世界的蔓延から現代のコロナウイルスまで。病気への差別や偏見と私たちの意識
06	1980年代アメリカ、1990年代日本、2000年のタイのエイズ関連事情から学びを深める
07	生と死について考える（病気・障がいとの向き合い方）
08	ダイエットと肥満・喫煙と飲酒など嗜好品について
09	オリンピックの歴史的変遷とスポーツ文化について考える
10	パラリンピックの歴史的変遷とスポーツ文化について考える
11	体力について知る　子どもとスポーツ
12	スポーツハラスメントとその対策およびスポーツとドーピング
13	ゆるスポーツについて知り、スポーツとは何かを考える
14	みんなのスポーツ　第３次スポーツ基本計画と日本のスポーツの行方
15	本講義のまとめ
16	確認試験

2022年度シラバス

科目名:コンピュータＩ	担当者:鐘ヶ江 みづほ・鬼頭 恭子・佐久間 潔	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:毎回充電済みＰＣ・マウスを持参すること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　コンピュータＩでは、課題や目的に応じてパソコンやアプリケーションを適切に活用し、その解決に向けて情報を収集・分析する力を身につけることを目標とする。Windows操作、メールの送受信、文書作成（Word）、表計算（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本操作を演習形式で学習する。なお。授業で使用するパソコン・マウスは、毎回各自が準備し持参する。持ってこない場合は受講できない（メーカー修理の場合を除く）。

授業の到達目標
１．自身の持つPCの操作方法を習得する。
２．Office ソフトを利用した情報の整理収集・分析・表現方法を習得する。【DP】
３．情報モラルと情報セキュリティを理解し、安全にPCを使用することができる。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　情報検索、レポートの作成などを通じて、日常的に使ってなれることが、パソコンの使い方をマスターするための近道であるので、授業で学んだ技術は、様々な科目の学習活動等において、積極的に活用すること。また、この時期に日常的にタイピング練習を行っておくこと。moodleやメールにて指示があるので確認する。

評価方法
受講態度（４０％）、毎回の提出課題（３０％）、各評価課題（３０％）
課題に対するフィードバック方法について
全体的な講評、模範解答等を印刷配付・メール配信・Ohka moodle等により伝達する

教科書	参考図書
日本語ワープロ検定　２・準２級　模擬問題集　表計算検定　２・準２級編　模擬問題集 文書デザイン検定　１級編　模擬問題集　ＦＯＭ出版　情報モラル＆情報セキュリティ	適宜授業内で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
【初回授業前に準備しておくこと】各自パソコンをセットアップし、使用できる状態にしておくこと。また、アプリやセキュリティソフトのアカウント登録の際のアドレス・パスワード等の詳細を必ず記録し管理しておくこと。準備していない場合、受講できない。
　初回授業では開始直ぐにクラス分けテストを実施するので、必ず準備したパソコン・マウスを持参すること。次回授業から習熟度別のクラス分けを行い、経験に合わせて指導を行う。毎回、充電済みのパソコン・マウスを持参すること。状況により授業計画の回数・内容が変更になる場合がある。

01	ガイダンス１（クラス分けタイピングテスト、大学無線LANへの接続、Moodle・Gmail登録）
02	ガイダンス２（習熟度別クラス分け後moodleコース登録、プリンタの設定、授業で必要なアプリのインストール）
03	Word基本１（基本的なビジネス文書）インターネット　ブラウザの基本操作と情報モラル
04	Word基本２（表を含んだビジネス文書）
05	Word基本３（図や図形を含んだビジネス文書）
06	Word課題作成１
07	Word課題作成２
08	PowerPoint基本１（基本操作）
09	PowerPoint基本２（アニメーション）
10	PowerPoint課題作成
11	PowerPoint課題発表
12	Excel基本１（四則演算集計）
13	Excel基本２（オートサムボタン）
14	Excel基本３（グラフの基本操作）
15	Excel課題、まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:コンピュータⅠ	担当者:佐久間 潔	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:　毎回充電済みPC・マウスを持参すること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
1.授業内容　　コンピュータⅠではパソコンの基本操作を学ぶ。Windows操作または、MAC OS X操作、メールの送受信、文書作成（Word）、表計算（Excel）、プレゼンテーション（PowerPoint）の基本操作を演習形式で学習する。
ディプロマポリシーに記された「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」を醸成する。

授業の到達目標
　学生生活および将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、本講においては、パソコンの基本操作を習得することを目標とする。現在最も普及しているソフトの一つであるWord、PowerPointとExcelの基礎の習得を目指し、今後の学生生活においてコンピュータを活用できることはもちろん、社会の現場で使いこなしていけるための基礎を身につけることを目標とする。
【ＤＰ】
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎高い教養に資する知識・理解
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　情報検索、レポートの作成などを通じて、日常的に使ってなれることが、パソコンの使い方をマスターするための近道であるので、授業で学んだ技術は、様々な科目の学習活動等において、積極的に活用すること。
また、この時期に日常的にタイピング練習を行っておくこと。Ohka moodleやメールにて指示があるので確認する。 毎回の授業でわからないことは、Ohka Moodleの動画教材を利用して解決、さらに予習・復習に利用する。
情報モラルは使う側の「モラルを守る姿勢」が重要です。特にネットの活用にはその自覚が必要！各授業について必要時間（1時間）

評価方法
受講態度・平常点（４０％）、Office製品（Word,Excel,PowerPoint）等の各課題・試験の評価（３０％）、その他の課題（試験）（３０％）課題等に対するフィードバックについては、印刷物などで返却する。

教科書	参考図書
日本語ワープロ検定　２・準２級　模擬問題集、表計算検定　２・準２級編　模擬問題集、文書デザイン検定　１級編模擬問題集、ＦＯＭ出版　情報モラル＆情報セキュリティＦＯＭ出版　情報モラル＆情報セキュリティ＜改訂版＞	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡用メールアドレス：sakuma@ohkagakuen-u.ac.jp　毎回、動画教材の確認と充電を完了させて持参する。
保育学部：初回に、クラス分けテストを行い、経験に合わせて指導を行う。

01	オリエンテーション　　（パソコン仕様確認、ブラインドタッチタイピング）
02	パソコンの基礎　パソコンの基本構成と基本操作　　（Mac Book Air）
03	インターネット　ブラウザの基本操作（サファリとグーグルクロム）
04	WORD基本１（WORDの基本操作）
05	WORD基本2（ビジネス文章の基本）
06	WORD基本3（図・表・図形のあるビジネス文章）
07	WORD課題作成
08	Power Point基本１（Power Pointの基本操作）
09	Power Point基本2（アニメーション）
10	Power Point課題の作成
11	Power Point課題の発表
12	表作成 基本１（基本構成と四則演算、集計）
13	表作成 基本2（Σ（オートサム）ボタン）
14	表作成 基本3（関数とグラフ作成の基礎）
15	表作成（まとめ）
16	なし

科目名:コンピュータⅡ	担当者:鐘ヶ江 みづほ・鬼頭 恭子・佐久間 潔	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:毎回充電済みＰＣ・マウスを持参すること		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　コンピュータⅡでは、課題や目的に応じてパソコンやアプリケーションを適切に活用し、その解決に向けて情報を収集・分析する力や自己の見解を適切に発信・伝達できる力を身につける。また個人情報の扱い、著作権、ネットワーク上のルール・マナー等の情報モラルや情報セキュリティの理解を深め、正しく情報活用するために的確な判断ができる力を育成するとともに、Word,Excel,PowerPointの応用操作を演習形式で学習する。

授業の到達目標
１．Office ソフトを利用した情報の整理収集・分析・表現方法を習得する。【DP】
２．今までに習得した知識や技術に基づき、独創的な作品を創作することができる。
３．情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任について理解し、情報モラルをもって、情報を収集・加工・整理し、分析・解釈することができる。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　日常の生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。デジタルプレゼンテーションにおいては、色の配置や表現方法などに、表計算においては、データの流れに着目してみると良い。その都度moodleやメールにて指示するので確認を怠らないこと。タイピング練習は、日常的に行っておく。

評価方法
受講態度（４０％）、毎回の提出課題（３０％）、各評価課題（３０％）
課題に対するフィードバック方法について
全体的な講評、模範解答等を印刷配付・メール配信・Ohka moodle等により伝達する

教科書	参考図書
前期使用のもの、適宜資料配布	適宜授業内で紹介

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　毎回、充電済みのパソコン・マウスを持参すること。状況により授業計画の回数・内容が変更になる場合がある。

01	オリエンテーション　（Wordビジネス文書復習）
02	Word応用課題１（ビジネス文書応用）
03	Word応用課題２（デザイン文書・チラシ作成）
04	Word応用課題３（デザイン文書・おたより作成）
05	Word応用課題４（デザイン文書・おたより作成）
06	Excel応用課題１（関数１、グラフ１）
07	Excel応用課題２（関数２、グラフ２）
08	Excel応用課題３（関数３、グラフ３）
09	Excel応用課題４（データベース機能などの便利な機能の活用）
10	総合課題（ExcelとWordとの連携）
11	PowerPoint応用課題１（テーマ決定、骨格作成）
12	PowerPoint応用課題２（詳細部作成）
13	PowerPoint応用課題３（発表準備）
14	パソコン検定模擬練習1
15	パソコン検定模擬練習2
16	なし

2022年度シラバス

科目名:コンピュータⅡ	担当者:佐久間 潔	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:前期のコンピュータⅠを受講していることが望ましい		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
1. 授業内容　コンピュータⅠを受けてセキュリティとPCの基本技能を進化させる。特にMicrosoft Office製品（Word,Excel,PowerPoint）2. 授業方法　WindowsPCまたはMAC Book Airを使用し、演習授業を通じてPCを活用するスキルを習得する3. 他の授業との関係　すべての授業科目でのレポート作成・レポート提出に活用できるようにする。
ディプロマポリシーに記された「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」を醸成する。

授業の到達目標
　前期で学習したコンピュータⅠで身につけたスキルを踏まえてさらに利活用するスキルを高める。1. Microsoft Office製品（Word,Excel,PowerPoint）の応用操作ができる。オフィス製品を利用して総合的なビジネス文書や園だより等の効率的な作成や計算処理、プレゼン準備ができる。今後の学生生活、また、将来社会現場でPCを使いこなすためのスキルを身につけることを目標とする。【ＤＰ】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
日常生活の中にあふれている「情報」に目を向ける。デジタルプレゼンテーションにおいては、色の配置や表現方法などに、表計算においては、データの流れに着目すると良い。
moodleやメールにて指示するので確認を怠らないこと。タイピング練習は、日常的に行い10分間に最低500文字が入力可能なスキルを身に着ける。各授業について必要時間（1時間）

評価方法
受講態度・平常点（４０％）、Office製品（Word,Excel,PowerPoint）等の各課題・試験の評価（３０％）、その他の課題（試験）（３０％）課題等に対するフィードバックについては、印刷物などで返却する。

教科書	参考図書
前期使用のもの	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡用メールアドレス：sakuma@ohkagakuen-u.ac.jp
毎回、動画教材の確認と充電を完了させて持参する。状況により授業計画の回数・内容が変更になる場合がある。

01	オリエンテーション（前期の復習）
02	WORD応用１（WORDの応用操作）
03	WORD応用2（デザイン文章の作成）
04	WORD応用3（デザイン文章　ちらし・パンフレット）
05	WORD課題
06	表作成 応用１（関数１）
07	表作成 応用2（関数２）
08	表作成 応用3（関数３）
09	表作成 応用4（便利な応用機能）
10	表作成（グラフ作成の応用）
11	Office製品の連携（WORD・EXCEL・Power Point）
12	Power Point応用１（Power Pointの応用操作）
13	Power Point応用2（アニメーション）
14	Power Point課題の作成
15	総合課題または試験
16	

科目名:インターンシップ（海外） A	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:Computer needed for presentation		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand languages and various cultures from a global perspective as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 5 days (20 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%
Feedback will be given during all stages of the overseas internship process both in person and by email.
Presentation feedback will be given to students by presentation rubric.

教科書	参考図書
Textbooks: supplies as needed	Reference Books and other Course Materials: supplies as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.
Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

01	To be developed for each overseas internship on a case-by-case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	

14	
15	
16	

科目名:インターンシップ（海外） B	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:Computer needed for presentation		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand languages and various cultures from a global perspective as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 10 days (40 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.
Feedback will be given during or at the end of the internship

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%
Feedback will be given during all stages of the overseas internship process both in person and by email.
Presentation feedback will be given to students by presentation rubric.

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied as needed	Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.

01	To be developed for each overseas internship on a case-by-case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	

15	
16	

2022年度シラバス

科目名:インターンシップ（海外） C	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:Computer needed for presentation		単位数	3
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand languages and various cultures from a global perspective as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎価値観・態度・志向性
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 15 days (60 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.
Feedback will be given during or at the end of the internship

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%
Feedback will be given during all stages of the overseas internship process both in person and by email.
Presentation feedback will be given to students by presentation rubric.

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied as needed	Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.
Students need to have access to a computer, the Internet and have Internet research skills.

01	To be developed for each overseas internship on a case-by-case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	

14	
15	
16	

2022年度シラバス

科目名:インターンシップ（海外）D	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:Computer needed for presentation		単位数	4
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to understand languages and various cultures from a global perspective as mentioned in SLADE's diploma policy.
Students participate in an overseas internship programs provided by international organizations, international NGOs, foreign companies, tourism companies, etc, to enhance their global experience. Examples include; TESOL practicum, Hotel internship, Early learning practicum, joining activities protecting the environment as a member of an NGO. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
The goal of this course is to give students valuable overseas experience that they can use when looking for employment or in other areas of their life. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎価値観・態度・志向性
○統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
The Overseas Internship program has to have at least 20 days (80 hours) of internship. Students must submit the letter of admission from the foreign institution / organization or join an established internship program. They must also submit a statement of purpose. Students must keep in contact with the instructor and give up-dates via e-mail during the internship program oversees.
Upon the completion of the internship program, students are required to submit a portfolio, journal and proof of internship from the foreign country internship institute/organization. Students must make an open presentation of their internship experience.
Students are allowed to take a maximum of four (4) Overseas Internship credits.
Within a single grading period (semester), students are allowed to combine several Overseas Internships into one, giving only one presentation covering all the internships she attended.
Feedback will be given during or at the end of the internship

評価方法
Evaluation Methods:
Actively participate in the internship program - 50%
Portfolio - 20%,
Journal - 10%
□Presentation - 20%
Feedback will be given during all stages of the overseas internship process both in person and by email.
Presentation feedback will be given to students by presentation rubric.

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied as needed	Reference Books and other Course Materials: To be supplied as needed

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
Students need to contact Overseas Internship and Academic Affairs Committee members about the overseas internship program. Students need to work closely with these committee members through the entire overseas internship process.
Donovan Clarke's office is 7308 and his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
Any questions about the course should be discussed with Donovan and Academic Affairs Committee members.

01	To be developed for each overseas internship on a case-by-case basis
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	

15	
16	

科目名:ボランティア（国内）	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実技
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
授業概要と方法
　NPO/NGO、企業、政府機関、私立機関、観光機関等でボランティア活動に参加することにより、学生たちが成長し、経験し、コミュニティ精神を養うことを目的とする。このことには、「信念ある女性」を育成し、社会の発展に貢献できる能力を身につけさせることを教育目標としている本学のディプロマポリシーが反映されている。子ども達、障害を持つ人、貧しい人、病める人、環境やコミュニティ全体を助ける等が実践例として考えられる。その他の活動も可能であり、担当者とともに話し合って決定する。なお、１年次の後期から４年次まで実習可能であるが、４年次の１月までにボランティア活動は完了している必要がある。

授業の到達目標
授業の到達目標
　本実習授業では、学生に、他者やコミュニティを助ける貴重な経験を与えることを目標とする。こうした活動を通して、卒業後も人生を通して様々な分野で活かすことのできるボランティア精神を養うことが期待される。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
活動条件、準備学修、活動、事後学修として行うべきこと
活動実施条件
１　国内でのボランティア活動を４０時間以上実施すること。
ａ）一つの活動を４０時間行う場合、ｂ）複数種類の活動を総合して４０時間とする場合がある。
２　２４か月以内に４０時間を達成すること。
準備
１　「ボランティア（国内）活動申込書」を担当者に提出する。本申込書において、日程、時間、各活動の目的、各活動の責任団体の情報を提示し、担当者に許可を求める。
２　「ボランティア活動届」を大学に提出する。
３　活動計画を立て、各活動に必要な準備を行い、事前打ち合わせ等に積極的に参加する。
４　準備期間中に実践した事柄を日誌として記録すること。
活動の実施　計画通りに実施し、活動内容が担当者に伝わるよう具体的に記録をとり、日誌として残すこと。
活動後の担当者への提出物
１　準備及び活動中の日誌
２　全ボランティア活動の総合的なポートフォリオ
３　各ボランティア及び活動全体のリフレクション

評価方法
評価方法 本授業は下記の事項の提出および達成することで「認定」される。
１　「申込書」提出（計画立案）、準備活動、「ボランティア活動届」の大学への提出　１０％
２　日誌とポートフォリオの提出　３０％
　a. ポートフォリオ：〈一種のボランティアを４０時間以上実施〉　英語900-1350語または日本語2400-3600字
　　〈複数のボランティアを総合して４０時間以上実施〉　計画に応じて担当者より指示する
　b. リフレクション：　ボランティア活動全体を通した内容とする。英語450語または日本語1200字
　c. 日誌：　準備期間及び活動中の記録　複数の活動を統合した場合もまとめて提出
３　ボランティア活動の積極的な参加　６０％

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
その他（受講要件、学生へのアドバイス、連絡手段等）
　希望者は国内ボランティア委員及び教務委員に連絡すること。プログラム全期間中、担当者と緊密に連絡を取り合いながら実施することが大切である。各活動に応じて計画を立案する。

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	

15	
16	

2022年度シラバス

科目名:ボランティア（海外）	担当者:田端 智美・嶋守 さやか	開講学科等	桜大共通
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「信念ある女性の育成」および建学の精神である「心豊かで気品に富み、洗練された近代女性の育成」を踏まえ、桜花学園大学の共通科目として、汎用的能力の育成を目指す。この科目では、国際的なNGO・企業・国際機関等でボランティア活動に参加することにより、学生自らが成長し、コミュニティ精神を養うことを目的とする。子ども・障がい者・貧しい人、病める人等の環境・コミュニティでボランティア活動を通して実習を行う。担当者と話し合いを持って活動を決定する。１年時後期から４年次までの実習が可能であるが、４年次１月までに活動を完了することとする。

授業の到達目標
子ども・障がい者等の環境・コミュニティでボランティアすることにより、貴重な海外経験を過ごし、自らの能力を高めることが目標である。こうした活動を通して、様々な分野でボランティアする精神を養う。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
活動実施条件：（１）海外でのボランティア活動を10日間（80時間）以上行うこと（２４ヶ月以内に80時間を達成すること）　①１つの活動を80時間以上行う場合　②複数種類の活動を総合して80時間以上行う場合　①②のいずれかに該当すること　（２）海外機関ボランティア許可書・ボランティア活動申込書を提出し、担当者に許可を求める。　（３）ボランティア活動届を提出する。　（４）準備期間も含め、活動を日誌にして提出　（５）活動報告を行う　（６）レポートを作成する

評価方法
学修活動（１）～（４）について評価する。活動内容２０％・日誌４０％・レポート２０％・態度２０％で採点する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書	参考図書
特になし	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
希望者は、担当教員と相談を行い、活動の立案を行うこと。
田端　tabata@ohkagakuen-u.ac.jp　嶋守　shimamori@ohkagakuen-u.ac.jp

01	希望者は担当者と連絡を取り授業を計画すること。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:総合英語Ⅰ	担当者:内田 政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身け、日常的に必要となる英語を使用することができるようになることを目指します。【DP】
さらに、Phrase Learningを通して、日常的な会話で必要とされる語彙や英語表現の基礎の習得を目指す。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%
内容のフィードバックや小テストの返却は、採点後翌週行うものとする

教科書	参考図書
Teruhiko Kadoyama他　Live Escalate Book2　(成美堂)　内田政一他　Active Communication with Phrases(南雲堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み)

01	Placement Test
02	Unit 1 : Occupations (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 1 Phrases)
03	Unit 1 : Occupations (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 1 Exercises)
04	Unit 2 : At the dinner table (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 1 Test)
05	Unit 2 : At the dinner table (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 2 Phrases)
06	Unit 3 : Sports (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 2 Exercises)
07	Unit 3 : Sports (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 2 Test)
08	Unit 4 : Health (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 3 Phrases)
09	Unit 4 : Health (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 3 Exercises)
10	Unit 5 : What's on Your Playlist? (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 3 Test)
11	Unit 5 : What's on Your Playlist? (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 4 Phrases)
12	Unit 6 : At the Movies (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 4 Exercises)
13	Unit 6 : At the Movies (Reading & Writing))/ Phrase Learning (Unit 4 Test)
14	Review Unit 1〜3 / Phrase Learning (Unit 5 Phrases)
15	Review Unit 4〜6 / Phrase Learning (Unit 5 Exercises)
16	Final Exam

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅰ	担当者:生田 美希	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用し、実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学びます。また、サブテキストを通して日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高めます。

4技能の習得を目指すテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた英語コミュニケーション能力を含む、総合的な英語力を身につけます。【DP】
また、Phrase Learningを通して、日常的に必要となる英語表現の習得を目指します。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも保育英検等の参考資料や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト　30%　　定期テスト　40%

授業中に行う小テストに関しては、授業内で答え合わせをした後に回収し教員がチェックした後に返却します。
ライティング課題等は学生がMoodleで提出し、Moodle内で教員のフィードバックを閲覧することが出来ます。

教科書	参考図書
角山　照彦 / LiveABC editors 共著　Live Escalate Book 1: Base Camp (成美堂)　内田政一他　Active Communication with Phrases (南雲堂) 堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書と辞書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。
授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

01	Placement Test
02	Unit 1 : Meeting New People (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 1 Phrases)
03	Unit 1 : Meeting New People (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 1 Test)
04	Unit 2 : School Life (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 2 Phrases)
05	Unit 2 : School Life (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 2 Test)
06	Unit 3 : Seeing a Doctor (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 3 Phrases)
07	Unit 3 : Seeing a Doctor (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 3 Test)
08	Unit 4 : Expressing Yourself (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 4 Phrases)
09	Unit 4 : Expressing Yourself (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 4 Test)
10	Unit 5 : Getting Around (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 5 Phrases)
11	Unit 5 : Getting Around (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 5 Exercise)
12	Unit 6 : Talking about the Time (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Phrases 復習①)
13	Unit 6 : Talking about the Time (Reading & Writing) / Phrase Learning (Phrases 復習②)
14	Review 1~3 / Phrase Learning (まとめ①)
15	Review 4~6 / Phrase Learning (まとめ②)
16	定期テスト

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅰ	担当者:山田 敦子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
　これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要となる英語表現の習得を目指す。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%
最終授業時にフィードバックを行う

教科書	参考図書
Teruhiko Kadoyama他 Live Escalate Book 1 (成美堂) 内田政一他 Active Communication with Phrases (南雲堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。連絡先は授業内で開示します。

01	Placement Test
02	Unit 1: Meeting New People (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (U1 Phrases)
03	Unit 1: Meeting New People (Reading & Writing) / Phrase Learning (U1 Exercises)
04	Unit 2: School Life (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (U1 Test)
05	Unit 2: School Life (Reading & Writing) / Phrase Learning (U2 Phrases)
06	Unit 3: Seeing a Doctor (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (U2 Exercises)
07	Unit 3: Seeing a Doctor (Reading & Writing) / Phrase Learning (U2 Tests)
08	Unit 4: Expressing Yourself (Conversation & Grammar)/ Phrase Learning (U3 Phrases)
09	Unit 4: Expressing Yourself (Reading & Writing)/ Phrase Learning (U3 Exercises)
10	Unit 5: Getting Around (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (U3 Tests)
11	Unit 5: Getting Around (Reading & Writing)/ Phrase Learning (U4 Phrases)
12	Unit 6: Talking about the Time (Conversation & Grammar)/ Phrase Learning (U4 Exercises)
13	Unit 6: Talking about the Time (Reading & Writing) / Phrase Learning (U4 Tests)
14	Review Unit 1~3 / Phrase Learning (U5 Phrases)
15	Review Unit 4~6 / Phrase Learning (U5 Exercises)
16	Final Exam

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅰ	担当者:石川 香代子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。身近なトピックを扱ったテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用し、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力が向上するような内容となっています。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身に付け、日常的に必要となる英語を使用することができるようになることを目標とします。【DP】さらに、Phrase Learningを通して日常会話で必要とされる語彙や表現の基礎の習得を目指します。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

小テストは採点後、翌週返却。

教科書	参考図書
角山照彦 Live ABC Editors　Live Escalate Book 2（成美堂）内田政一　加藤あや美　他（2016）Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書と辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

01	Placement Test
02	Unit 1：Oppupations (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 1 Phrases)
03	Unit 1：Oppupations (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 1 Exercises)
04	Unit 2：At the Dinner Table (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 2 Phrases)
05	Unit 2：At the Dinner Table(Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 2 Exercises)
06	Unit 3：Sports (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 3 Phrases)
07	Unit 3：Sports (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 3 Exercises)
08	Unit 4：Health (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 4 Phrases)
09	Unit 4：Health (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 4 Exercises)
10	Unit 5：What’s on Your Playlist? (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 5 Phrases)
11	Unit 5：What’s on Your Playlist? (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 5 Exercises)
12	Unit 6：At the Movies (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Phrases復習①)
13	Unit 6：At the Movies(Reading & Writing) /　Phrase Learning (Phrases復習②)
14	Unit 7：Review p70 & 71 /　Phrase Learning (まとめ①)
15	Unit 7：Review p72 & 73 /　Phrase Learning (まとめ②)
16	定期テスト

科目名:総合英語Ⅱ	担当者:内田 政一	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生に身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につけ、日常的に必要となる英語を使用することができるようになることを目標とします。【DP】さらに、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要とされる語彙や表現の基礎を習得を目指す。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%　前回のフィードバックや小テストの返却・復習は、翌週行います。

教科書	参考図書
Teruhiko Kadoyama他　Live Escalate Book 2(成美堂)　内田政一他　Active Communication with Phrases(南雲堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。（オフィスアワー：木曜昼休み）

01	Class Orientation
02	Unit 7：Technology in Daily Life (Conversation & Grammar)　/　Phrase Learning　(Unit 6 Phrases)
03	Unit 7：Technology in Daily Life (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(Unit 6 Exercises)
04	Unit 8：　Social Network (Conversation & Grammar)　/　Phrase Learning　(Unit 6 Test)
05	Unit 8：　Social　Network (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(Unit 7 Phrases)
06	Unit 9：Looking on the Bright Side (Conversation & Grammar))　/　Phrase Learning　(Unit 7 Exercises)
07	Unit 9：Lookin on the Bright Side (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(Unit 7 Test)
08	Unit 10：Love Affairs (Conversation & Grammar))　/　Phrase Learning　(Unit 8 Phrases)
09	Unit 10：Love Affairs (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(Unit 8 Exercises)
10	Unit 11：Storytelling (Conversation & Grammar))　/　Phrase Learning　(Unit 8 Test)
11	Unit 11：Storytelling (Reading & Writing)　/　Phrase Learning　(Unit 9 Phrases)
12	Unit 12：The Power of Words (Conversation & Grammar))　/　Phrase Learning　(Unit 9 Exercises)
13	Unit 12：The Power of Words (Reading & Writing)/　Phrase Learning　(Unit 9 Test)
14	Review Unit 7～9　/　Phrase Learning　(Unit 10 Phrases)
15	Review Unit 10～12　/　Phrase Learning　(Unit 10 Exercises)
16	Final Exam

科目名:総合英語Ⅱ	担当者:生田 美希	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用し、実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学びます。また、サブテキストを通して日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高めます。

4技能の習得を目指すテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた英語コミュニケーション能力を含む、総合的な英語力を身につけます。【DP】
また、Phrase Learningを通して、日常的に必要となる英語表現の習得を目指します。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも保育英検等の参考資料や、英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日常から英語に触れ合うようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト　30%　　定期テスト　40%

授業中に行う小テストに関しては、授業内で答え合わせをした後に回収し教員がチェックした後に返却します。
ライティング課題等は学生がMoodleで提出し、Moodle内で教員のフィードバックを閲覧することが出来ます。

教科書	参考図書
角山　照彦 / LiveABC editors 共著　Live Escalate Book 1: Base Camp (成美堂)　内田政一他　Active Communication with Phrases (南雲堂) 堂)	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
教科書と辞書を毎回必ず持ってくること。欠席した際のフォローアップ（授業の進度・配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

01	Introduction
02	Unit 7：Eating Out(Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 6 Phrases)
03	Unit 7：Eating Out (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 6 Test)
04	Unit 8：At a Supermarket (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 7 Phrases)
05	Unit 8：At a Supermarket (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 7 Test)
06	Unit 9：Hobbies (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 8 Phrases)
07	Unit 9：Hobbies (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 8 Test)
08	Unit 10：Shop till You Drop (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 9 Phrases)
09	Unit 10：Shop till You Drop (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 9 Test)
10	Unit 11：Going on Vacation (Conversation & Grammar) / Phrase Learning (Unit 10 Phrases)
11	Unit 11：Going on Vacation (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 10 Test)
12	Unit 12：Sports (Conversation & Grammar) / Phrase Learning Phrase Learning (Phrases 復習①)
13	Unit 12：Sports (Reading & Writing) / Phrase Learning Phrase Learning (Phrases 復習②)
14	Review 7~9 / Phrase Learning (まとめ①)
15	Review 10~12 / Phrase Learning (まとめ②)
16	定期テスト

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅱ	担当者:山田 敦子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。学生にとって身近なトピックをテーマとするテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をペア・グループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用することで、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力を高められるようにしていきます。

授業の到達目標
　これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、発展的なトレーニングにより、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身につける。また、Phrase Learningを通して、日常的な会話に必要となる英語表現の習得を目指す。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業中に調べた単語は各自でまとめ、日々の英語学習に役立てるようにして下さい。また、毎回の授業の復習を必ず行い、次回の授業に臨むようにしましょう。さらに、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%
最終授業時にフィードバックを行う

教科書	参考図書
Teruhiko Kadoyama他Live Escalate Book 1（成美堂）内田政一他 Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書及び辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。連絡先は授業内で開示します。

01	Class Orientation
02	Unit 7：Eating Out （Conversation & Grammar）/ Phrase Learning（U6 Phrases）
03	Unit 7：Eating Out （Reading & writing)/ Phrase Learning（U6 Exercises）
04	Unit 8：At a Supermarket （Conversation & Grammar）/ Phrase Learning（U6 Tests）
05	Unit 8：At a Supermarket（Reading & Writing）/ Phrase Learning（U7 Phrases）
06	Unit 9：Hobbies（Conversation & Grammar）/ Phrase Learning（U7 Exercises ）
07	Unit 9：Hobbies（Reading & Writing）/ Phrase Learning（U7 Tests）
08	Unit 10：Shop Till You Drop（Conversation & Grammar）/ Phrase Learning（U8 Phrases）
09	Unit 10：Shop Till You Drop（Reading & Writing）/ Phrase Learning（U8 Exercises）
10	Unit 11：Going on Vacation（Conversation & Grammar）/ Phrase Learning（U8 Tests）
11	Unit 11：Going on Vacation（Reading & Writing）/ Phrase Learning（U9 Phrases）
12	Unit 12：Sports（Conversation & Grammar）/ Phrase Learning（U9 Exercises ）
13	Unit 12：Sports（Reading & Writing）/ Phrase Learning（U9 Tests）
14	Review Unit 7~9 / Phrase Learning（U10 Phrases）
15	Review Unit 10~12 / Phrase Learning（U10 Exercises）
16	Final Exam

2022年度シラバス

科目名:総合英語Ⅱ	担当者:石川 香代子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:幼稚園・小学校教諭1種免許状・保育士資格		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この授業では、英語の運用能力の4技能であるListening・Speaking・Reading・Writingをバランスよく学習していきます。身近なトピックを扱ったテキストを使用することで実際のコミュニケーション場面で役立つ英語表現をグループワーク等の実践的なトレーニングの中で学んでいきます。また、サブテキストを使用し、日常的な英会話の語彙や表現に触れつつ、効果的に英語力が向上するような内容となっています。

授業の到達目標
これまで学んできた英語の復習をすることで、基礎的な英語力の定着を図り、4技能のバランスがとれた総合的な英語力を身に付け、日常的に必要となる英語を使用することができるようになることを目標とします。【DP】さらに、Phrase Learningを通して日常会話で必要とされる語彙や表現の基礎の習得を目指します。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業後の復習（筆記・音読）や自主的な練習は、各自で行い授業に臨むようにしましょう。また、教科書以外にも英検、保育英検等の参考資料や英語の絵本等は図書館、インターネットを活用して、日頃から英語に触れるようにしてください。

評価方法
　授業への参加態度　30%　　小テスト30%　　定期テスト40%

小テストは採点後、翌週返却。

教科書	参考図書
角山照彦　Live ABC editors　Live Escalate Book 2（成美堂）内田政一　加藤あや美　他（2016）Active Communication with Phrases（南雲堂）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には、教科書と辞書を毎回必ず持ってくること。授業を欠席した際のフォローアップ（授業の進度の確認や配布物・宿題の確認）は、各自で次の授業が始まる前に済ませておいてください。授業担当者への連絡方法は、担当者から授業内でお知らせします。

01	Review of the spring semester
02	Unit 7 : Techonology in Daily Life (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 6 Phrases)
03	Unit 7 : Techonology in Daily Life (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 6 Exercises)
04	Unit 8 : Social Network (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 7 Phrases)
05	Unit 8 : Social Network (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 7 Exercises)
06	Unit 9 : Looking on the Bright Side (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 8 Phrases)
07	Unit 9 : Looking on the Bright Side (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 8 Exercises)
08	Unit 10 : Love Affairs (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Unit 9 Phrases)
09	Unit 10 : Love Affairs (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Unit 9 Exercises)
10	Unit 11 : Storytelling (Listening & Speaking) / Phrase Learning (Unit 10 Phrases)
11	Unit 11 : Storytelling (Reading & Writing) / Phrase Learning (Unit 10 Exercises)
12	Unit 12 : The Power of Words (Listening & Speaking) /　Phrase Learning (Phrases復習①)
13	Unit 12 : The Power of Words (Reading & Writing) /　Phrase Learning (Phrases復習②)
14	Review 2 p134 & p135　/　Phrase Learning（まとめ①）
15	Review 2 p136 & p137 /　Phrase Learning（まとめ②）
16	定期テスト

2022年度シラバス

科目名:ポルトガル語と文化Ⅰ	担当者:富松 エミ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカッションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音、挨拶表現、文法等、基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について、又、日本の幼稚園・保育園、学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽、映画、ブラジルの遊び、幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介します）（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば、ブラジル料理の店などを紹介したい

評価方法
（出席・.授業参加度・意欲・関心）20%・提出物20%・小テスト20%・発表・レポート20%会話テスト20%
フィードバックは、授業時等において、提出物や小テスト、発表やレポート等について個別あるいは全体講評にて行う。

教科書	参考図書
ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	ポルトガル語のこととブラジルのこと
02	ポルトガル語の文字と発音１
03	ポルトガル語の文字と発音練習問題
04	挨拶と簡単な日常会話１
05	挨拶と簡単な日常会話２
06	名詞の性と数
07	否定文と疑問文
08	ブラジルと日本の違い
09	４～７の練習問題
10	ＳＥＲ動詞１とグループ作り　（ブラジルの事調べ）
11	ＳＥＲ動詞2 とグループ活動　（ブラジルの事調べ）
12	形容詞とグループ活動　発表の準備
13	グループ発表
14	会話テスト
15	ブラジルの食文化とブラジルの料理作り
16	

2022年度シラバス

科目名:ポルトガル語と文化Ⅱ	担当者:富松 エミ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
講義形式と、グループを作ってディスカッションをして発表し合う

授業の到達目標
ブラジル・ポルトガル語の基礎段階を総合的に学習します。発音、挨拶表現、文法等、基礎的能力を養成します。ブラジルの文化・歴史について、又、日本の幼稚園・保育園、学校現場でブラジル人園児児童生徒と接する際に必要な言葉等についても言及します。（音楽、映画、ブラジルの遊び、幼稚園・学校の様子、人の生き方などを実物や映像を使って紹介します）（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
人数的に無理だと思うので予定していないが、状況が許せば、ブラジル料理の店などを紹介したい

評価方法
(出席・.授業参加度・意欲・関心)20%・提出物20%・発表30%・会話テスト30%
フィードバックは、授業時等において、提出物や小テスト、発表やレポート等について個別あるいは全体講評にて行う。

教科書	参考図書
ブラジルを発見-ブラジル・ポルトガル語入門　兼松シルビア典子著　同学社（必修）学生の携帯電話のアプリケーション（辞書）の使用も可	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
ポルトガル語はブラジル人にとってもとても難しいので、テキストは簡単なものを選びました。それでも日本人には難しいと思いますが、がんばって楽しい授業をするので一緒にがんばりましょう。　毎回、教科書の日本語訳を予習してきてください。

01	前期のおさらい
02	所有詞と練習問題
03	命令形と指示詞
04	ＥＳＴＡＲ動詞
05	17～18の練習問題と会話の練習
06	グループで会話作り
07	ＱＵＥＲＥＲ動詞と数詞と会話の練習
08	会話の発表・ＳＥＲとＥＳＴＡＲの違い
09	場所の副詞と時間の言い方
10	20～22の練習問題と会話の練習
11	ＴＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ
12	ＰＯＤＥＲ動詞・ブラジルについてのグループ調べ
13	ブラジルについてのグループ発表
14	ブラジルのお菓子作り
15	会話テスト
16	

2022年度シラバス

科目名:スペイン語と文化Ⅰ	担当者:ロンセロス ロサリオ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
スペイン語と文化Iは1年生の選択科目です、初めてスペイン語を勉強する学生を対象とします。スペイン語の基礎とラテンアメリカとスペインの文化についても学ぶ予定です。また、習得した簡単な表現を使ってスペイン語でコミュニケーションをとることもできます。
個人又はグループで実際的なコミュニケーションの練習をするので授業の中での学生の積極的な参加を期待します。

授業の到達目標
このコースの修了時に、学生たちは次の能力を持つことが期待される：1. アルファベット、数詞を習得し簡単な単語を使った会話ができる。2. Ser, Estar 動詞を使った質問文、解答文を作ることができる。3. 学んだ知識を使って先生やクラスメートと簡単なコミュニケーションができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教科書付属のCDを聴いてスペイン語の音やリズムに親しんでください。
宿題は必ず仕上げておいてください。復習をしっかり行なってください。

評価方法
最終評価は、次の要素を満たす必要がある。
1. 授業への参加態度、提出物（出席と各授業で指示される課題)、会話小テスト　50%
2. 確認テスト 2回　(小テスト)　50%
　(合格)となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。
合計　100%
フィードバックは、授業時等において確認テスト等について個別あるいは全体講評を行う。

教科書	参考図書
¡Hola! ¿Qué tal?	El Español y YO

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業への準備（予習）と復習、宿題の提出、授業中の積極的な発言を期待します。このコースに関する質問、不安などがある者は授業者ロサリオ・ロンセロスにEメールでコンタクトをとること。 アドレス： rosariohilario@hotmail.com

01	ガイダンス、資料の配布、自己紹介、 アルファベットの歌
02	第１課　挨拶の練習、 アルファベット
03	第１課　発音練習 、スペルの練習
04	第2課　名詞の性と数 、冠詞、冠詞形容詞
05	第2課　数詞、会話練習 ※ インターナショナル・デイの準備（文化学習）　※ ペルー民族舞踊の紹介と練習。(ダンス)
06	第5課　動詞 ser、動詞serの使い方
07	第5課　職業、特徴や性質を表わす形容詞
08	確認テスト（１）　※スペイン語の歌の紹介と練習。　※文化体験 ※ インターナショナル・デイの準備（文化学修）　※ スペイン語の歌の紹介と練習
09	第5課　国名、国籍（名詞・形容詞）、会話練習
10	第6課　曜日・月・時間・日付・値段
11	第6 課　指示形容詞、指示代名詞、会話練習
12	第7 課　動詞estar、動詞estarの使い方
13	第7課　場所を表す前置詞、前置詞句、会話練習
14	第7課　動詞haber（hay)、動詞haberの使い方　※授業評価アンケート
15	総復習とまとめ、確認テスト（2)
16	なし

2022年度シラバス

科目名:スペイン語と文化Ⅱ	担当者:ロンセロス ロサリオ	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
スペイン語と文化IIは1年次のスペイン語科目です。スペイン語の初級レベルの基礎知識を持つ学生を対象とします。スペイン語と文化IIは、スペイン語と文化Iの続きです。または、学生は、学んだ知識を使用して、個人またはグループでコミュニケーションをとることができるように、スペイン語の知識と技能を伸ばし、発展させます。同時に、ラテンアメリカとスペインの文化についても学ぶ予定です。

授業の到達目標
このコースの修了時に、学生たちは次の能力を持つことが期待される：1. 新しい単語を使って簡単な会話の練習をしながら、スペイン語の知識を増やす。2. 現在形動詞の規則動詞、不規則動詞の活用を学び、小文章を書くこと、読むことができる。3. 学んだ知識を使って先生やクラスメートと簡単なコミュニケーションができる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
教科書付属のCDを聴いてスペイン語の音やリズムに親しんでください。
宿題は必ず仕上げておいてください。復習をしっかり行なってください。

評価方法
最終評価は、次の要素を満たす必要がある。
1. 授業への参加態度、提出物（出席と各授業で指示される課題)、会話小テスト　50%
2. 確認テスト 2回　(小テスト)　50%
　(合格)となるためには、到達目標を最低限達成することが必要である。
合計　100%
フィードバックは、授業時等において確認テスト等について個別あるいは全体講評を行う。

教科書	参考図書
¡Hola! ¿Qué tal?	El Español y YO

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業への準備（予習）と復習、宿題の提出、授業中の積極的な発言を期待します。このコースに関する質問、不安などがある者は授業者ロサリオ・ロンセロスにEメールでコンタクトをとること。アドレス：
rosariohilario@hotmail.com

01	ガイダンス、自己紹介、スペイン語Iの復習
02	第3課　主格人称代名詞、規則動詞の活用 ～ar、用法
03	第3課　規則動詞の活用～er、～ir、用法
04	第3課　疑問文 ：¿Qué...? ¿Cómo...? ¿Dónde...? 会話練習
05	第4課　不規則動詞の活用～ar、～er、～ir、用法
06	第4課　前置詞（a, de, con）、疑問詞 ¿A quién...? ¿De dónde...? ¿Con quién...?
07	会話練習、確認テスト（１）　※ ペルーの昔の子供の遊びの紹介(ゲーム)。
08	第8 課　動詞 querer の活用、動詞 querer の使い方
09	第8 課　動詞 querer + 不定詞、会話練習
10	第9 課　動詞 poder の活用、動詞 poder の使い方
11	第9 課　動詞 poder + 不定詞、会話練習
12	ペルーの食文化体験かスペイン語の映画の紹介。　※文化体験
13	第10 課　動詞 tener の活用、動詞 tener の使い方、tener ＋名詞、
14	第10 課　tener + 数詞 + años、疑問文 ¿Cuántos ...? ¿Qué ...? 会話練習 ※ 学期末アンケート実施
15	年間学習内容のまとめ、確認テスト (2)
16	なし

2022年度シラバス

科目名:フランス語と文化Ⅰ	担当者:中島 潤	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
フランス語及びフランス語圏の文化について学びます。主に教科書を使って授業を進めていきますが、適宜、学生諸君の興味に合わせて、映画や音楽、芝居などの映像・音声などを使用したいと思っています。カリキュラムポリシー「自主的・総合的に思考し判断しうる、情報処理能力、外国語運用能力、表現能力、問題発見・解決能力」を養う授業を目指します。フランスに興味のある学生さんは、気軽に参加してくださるとうれしいです。

授業の到達目標
簡単なフランス語を、読み・聞き・書き・話せるようになることが目標です。具体的には、実用フランス語技能検定５級合格程度のフランス語能力を身につけることになります。さらに、フランスに限らず、ヨーロッパの文化について興味を深めてもらえれば素晴らしいと思います。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
フランス語を習得する上で、練習問題を予習することもあるかと思います。さらに、学習したことの定着をはかるため、授業中に学習した事項の復習をすることが望ましいです。私たちの生活にはさまざまなフランス文化の影響があるとおもわれます。そのようなものに日常的に気をつける態度が持てれば、さらに素晴らしいと思います。授業外に行うべき学修活動に準備学修事後学に必要な時間数（2時間）が必要となりますが、こちらについては授業で指示します。

評価方法
授業への参加態度60％
確認テスト40％（学期の最後に簡単な確認テストをする予定です）
フィードバックの方法：試験後にムードルで模範解答を公開・解説する

教科書	参考図書
『新装 カフェ・フランセ』朝日出版社	特にありません

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
語学の学習は継続が重要です。理解できない項目があったら、必ず質問し、問題点を解決してください。連絡は、moodleまたはemailでお願いします（nnaakkaajjuunn@yahoo.co.jp）

01	授業の概要説明。アルファベなど。 簡単な単語の発音（日本語の中のフランス語）。 簡単な単語の発音（解説・発音練習・文法練習など）。 Leçon 1　自己紹介・国籍を言う（解説・発音練習・文法練習など） 授業の概要説明。アルファベなど。
02	簡単な単語の発音（日本語の中のフランス語）。
03	簡単な単語の発音（解説・発音練習・文法練習など）。
04	Leçon 1　挨拶をする・名前をいう（解説・発音練習・文法練習など）
05	Leçon 1　名前のスペルをいう（解説・発音練習・文法練習など）
06	Leçon 1　国籍をいう（解説・発音練習・文法練習など）
07	Leçon 2　職業をいう（解説・発音練習・文法練習など）
08	Leçon 2　出身地をいう（解説・発音練習・文法練習など）
09	Leçon 2　話せる言語を言う（解説・発音練習・文法練習など）
10	Leçon 3　専攻をいう（解説・発音練習・文法練習など）
11	Leçon 3　好きなことをいう（解説・発音練習・文法練習など）
12	文化体験学習（International Day）（予定）
13	Leçon 3　すんでいる国や都市をいう（解説・発音練習・文法練習など）
14	Leçon 4　否定する（解説・発音練習・文法練習など）
15	Leçon 4　何歳ですか（解説・発音練習・文法練習など）・確認テスト
16	

2022年度シラバス

科目名:フランス語と文化Ⅱ	担当者:中島 潤	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
前期からの継続です。主に教科書を使って授業を進めていきますが、適宜、学生諸君の興味に合わせて、映画や音楽、芝居などの映像・音声などを使用したいと思っています。カリキュラムポリシー「自主的・総合的に思考し判断しうる、情報処理能力、外国語運用能力、表現能力、問題発見・解決能力」を養う授業を目指します。フランスに興味のある学生さんは、気軽に参加してくださるとうれしいです。

授業の到達目標
前期からの継続です。簡単なフランス語を、読み・聞き・書き・話せるようになることが目標です。具体的には、実用フランス語技能検定５級合格程度のフランス語能力を身につけることになります。さらに、フランスに限らず、ヨーロッパの文化について興味を深めてもらえれば素晴らしいと思います。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
フランス語を習得する上で、練習問題を予習することもあるかと思います。さらに、学習したことの定着をはかるため、授業中に学習した事項の復習をすることが望ましいです。私たちの生活にはさまざまなフランス文化の影響があるとおもわれます。そのようなものに日常的に気をつける態度が持てれば、さらに素晴らしいと思います。授業外に行うべき学修活動に準備学修事後学に必要な時間数（2時間）が必要となりますが、こちらについては授業で指示します。

評価方法
授業への参加態度60％
確認テスト40％（学期の最後に簡単な確認テストをする予定です）
フィードバックの方法：試験後にムードルで模範解答を公開・解説する

教科書	参考図書
『新装 カフェ・フランセ』朝日出版社	特にありません

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
語学の学習は継続が重要です。理解できない項目があったら、必ず質問し、問題点を解決してください。連絡は、moodleまたはemailでお願いします（nnaakkaajjuunn@yahoo.co.jp）

01	Leçon 5　持ち物をいう（解説・発音練習・文法練習など）
02	Leçon 5　年齢をいう（解説・発音練習・文法練習など）
03	Leçon 5　行き先をいう（解説・発音練習・文法練習など）
04	Leçon 6　家事についてはなす（解説・発音練習・文法練習など）
05	Leçon 6　普段することを語る（解説・発音練習・文法練習など）
06	Leçon 6　人や物を描写する（解説・発音練習・文法練習など）
07	Leçon 7　所有をいう（解説・発音練習・文法練習など）
08	Leçon 7　電話番号をいう（解説・発音練習・文法練習など）
09	Leçon 7　欲しいものをいう（解説・発音練習・文法練習など）
10	Leçon 8　値段を尋ねる（解説・発音練習・文法練習など）
11	Leçon 8　食料品を買う（解説・発音練習・文法練習など）
12	Leçon 8　位置関係をいう（解説・発音練習・文法練習など）
13	Leçon 9　道順を説明する（解説・発音練習・文法練習など）
14	Leçon 9　命令する（解説・発音練習・文法練習など）
15	Leçon 9　質問をする（解説・発音練習・文法練習など）・確認テスト
16	

2022年度シラバス

科目名:中国語と文化Ⅰ	担当者:布和	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業は、保育学部のポリシーである「他者と交流・協力し、学びあう力(豊かなコミュニケーション能力」及び学芸学部のポリシーである「グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力」の育成に合致するもので、現代中国語の入門講義である。まずは、中国語発音の基礎である「ピンイン」を学習し、繰り返し練習した後に簡単なあいさつ文から徐々に簡単な会話を勉強する。また、講義の間にビデオなどの映像手段をも使用し、学習内容を印象付けるつもりである。この授業は後期に開講する中国語Ⅱを選択するための必修講義でもある。

授業の到達目標
１５回の講義を終えて、学生たちが中国語発音の基礎である「ピンイン」の発音ができる（DP）ようになること、また、流暢に簡単な会話文を読めるようになる（DP）を目標にしている。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解　◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業の前に単語の予習及び授業後の復習を少なくとも1時間程度にしてほしい

評価方法
　欠席回数が６回になれば、単位を不認定する。成績は、授業参加意欲(50%)と確認テスト(50%)の結果を総合して評価する。なお、確認テスト後に問題を解説する時間を設定し、以ってフィードバックとしたい。

教科書	参考図書
遠藤光暁　監修『入門　ビジュアル中国』朝日出版	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業進度は事情によって多少な変化が生じる。担当教員の連絡先及びオフィスアワーは授業中に知らせる。

01	授業紹介
02	発音の学習と挨拶①
03	発音の学習と挨拶②
04	発音の学習と挨拶③
05	入学初日
06	中華民族園にて
07	ダイ族の正月
08	旅行
09	小結
10	新しい家
11	兵馬俑を見学
12	ナショナルディー
13	西安
14	上海万博
15	確認テスト
16	なし

科目名:中国語と文化Ⅱ	担当者:布 和	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:「中国語と文化Ⅰ」を修得した者		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　この授業は、保育学部のポリシーである「他者と交流・協力し、学びあう力(豊かなコミュニケーション能力」及び学芸学部のポリシーである「グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力」の育成に合致する現代中国語の初級講義である。毎回、新しい単語を解説し、本文の会話を繰り返し練習する。必要に応じて文法事項の説明も行う。また、講義の間にビデオなどの映像手段をも使用し、学習内容を印象付けるつもりである。この授業は前期に開講する中国語Ⅰを選択した上で履修する講義である。

授業の到達目標
　１５回の講義を終えて、学生たちが中国語で簡単な挨拶ができること（DP）、また、辞書を使えば簡単な文章が理解できる（DP））ようになることを目標にしている。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解　◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業の前に単語の予習及び授業後の復習を少なくとも１時間程度してほしい。

評価方法
　欠席回数が６回になれば、単位を不認定する。成績は、授業参加意欲(50%)と確認テスト(50%)の結果を総合して評価する。なお、確認テスト後に問題を解説する時間を設定し、以ってフィードバックとしたい。

教科書	参考図書
遠藤光暁　監修『入門　ビジュアル中国』朝日出版	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業進度は状況によって多少な変化が生じる。担当教員の連絡先及びオフィスアワーの時間は授業中に知らせる。

01	授業の紹介
02	各国の国名について①
03	各国の国名について②
04	蘇州の園林①
05	蘇州の園林②
06	天壇①
07	天壇②
08	小結
09	少林寺①
10	少林寺②
11	清明節①
12	清明節②
13	喫茶店にて①
14	喫茶店にて②
15	確認テスト
16	なし

2022年度シラバス

科目名:韓国語と文化Ⅰ	担当者:都 恩珍・金 三淑	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
他者と交流・協力し、学びあう力が求められる中、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を高めるディプロマポリシーの一環として、韓国語と文化Ⅰでは韓国語の文字(ハングル)及び基礎文法を学びながら、簡単な日常会話を練習します。また、韓国の生きた文化に触れながら理解を深めていきます。International Dayには、グループで取り組んだ文化学修内容を発表します。

授業の到達目標
本授業は韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を身に付けることができるようになります。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：学修する課の音源を聞き、音読の練習をしてください。必要時間：約120分
事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。必要時間：約120分
K-POP、ドラマなど韓国の文化と触れ合うことをお勧めします。

評価方法
主体的に学習に取り組む姿勢(日々の授業の様子や授業後の感想記述内容などから評価する)20%、確認テスト　40%、課題　40%
授業において提示した課題（試験、レポート等）に対するフィードバック方法については授業終了後、全体的な講評、模範解答等をOhka moodle上あるいは印刷配付する。

教科書	参考図書
『ワンステップ韓国語』河　正一　著、朝日出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
興味をもって学習をすすめることが大切だと考えます。積極的に取り組み、楽しく学んでいきましょう。オフィスアワー：授業の前後の時間

01	ガイダンス、【文字編】　第1課①　韓国・朝鮮語の特徴
02	【文字編】　第1課②　基本母音
03	【文字編】第2課①　基本子音（平音）
04	【文字編】第2課②　基本子音（激音、濃音）
05	まとめ、確認テスト（１）
06	【文字編】第3課　複合母音
07	【文字編】第４課　終声（パッチム）、子音の名称
08	まとめ、確認テスト（２）、文化体験Ⅰ　映画鑑賞①
09	文化体験Ⅰ　映画鑑賞②
10	【文字編】第５課①　発音の変化
11	【文字編】第５課②　発音の変化
12	まとめ、確認テスト（３）、日本語のハングル表記
13	【文法編】第1課①　挨拶をする。文法と本文
14	【文法編】第1課②　挨拶をする。総合練習、漢字の読み「大学生」
15	まとめ、確認テスト（４）
16	なし

2022年度シラバス

科目名:韓国語と文化Ⅱ	担当者:都 恩珍・金 三淑	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
他者と交流・協力し、学びあう力が求められる中、グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力を高めるディプロマポリシーの一環として、韓国語と文化Ⅱでは韓国語と文化Ⅰに引き続き韓国語の基礎文法を学びながら、簡単な日常会話及び自己紹介を練習します。授業は、テキストを中心に進めますが、ペアーワークで会話の練習をします。また、韓国のいろいろな生きた文化に触れながら理解を深めていきます。

授業の到達目標
本授業は韓国語の「聞く・話す・読む・書く」基礎能力を身に付けることができるようになります。みんなの前で自己紹介ができるようになります。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○高い教養に資する知識・理解
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：学修する課の音源を聞き、音読の練習をしてください。必要時間：約120分
事後学修：学修した単語を単語帳にまとめ、覚えてください。必要時間：約120分
K-POP、ドラマなど韓国の文化と触れ合うことをお勧めします。

評価方法
主体的に学習に取り組む姿勢(日々の授業の様子や授業後の感想記述内容などから評価する)　20%
確認テスト　40%、練習帳・課題　40%
授業において提示した課題（試験、レポート等）に対するフィードバック方法については授業終了後、全体的な講評、模範解答等をOhka moodle上あるいは印刷配付する。

教科書	参考図書
『ワンステップ韓国語』河　正一　著、朝日出版社	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
興味をもって学習をすすめることが大切だと考えます。積極的に取り組み、楽しく学んでいきましょう。オフィスアワー：授業の前後の時間

01	ガイダンス、前期の内容の復習
02	【文法編】第２課①　状況を説明する。文法と本文
03	【文法編】第２課②　状況を説明する。総合練習、漢字の読み「国語」
04	まとめ、確認テスト（１）
05	【文法編】第３課①　買い物をする。文法と本文
06	【文法編】第３課②　買い物をする。総合練習、漢字の読み「映画」
07	【文法編】第４課①　予定を述べる１。文法と本文
08	【文法編】第４課②　予定を述べる１。総合練習、漢字の読み「前後」
09	確認テスト（２）（自己紹介）、文化体験Ⅰ　映画鑑賞①
10	文化体験Ⅰ　映画鑑賞②
11	【文法編】합니다体・해요体のまとめ
12	文化体験Ⅱ　韓国の歌など
13	【文法編】第５課①　予定を述べる２。文法と本文
14	【文法編】第５課②　予定を述べる２。総合練習、漢字の読み「会社員」
15	まとめ、確認テスト（３）
16	なし

科目名:日本語表現Ⅰ	担当者:松浦 照子・鬼頭 祐太	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
大学生として必要な日本語能力、社会人として求められる能力として、日本語の4領域（話す・聞く・書く・読む）について学び、その4領域の力を高める。今学期では話しことばに焦点を当て、調査、発表を通じて伝える力を身につける。また、新書や新聞記事を読み、要約する練習を通して、読解力を養う。同時に、時事問題に関心を持ち、自分の考えを話したり、書いたりできるようにする。

授業の到達目標
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○統合的な学習経験と創造的思考力
対話の諸形式（1対1，1対複数、1対多数）に応じた適切な言葉遣いができるようにする。自己紹介から、グループでの対話、大多数の前で発表するなどの機会を通して、コミュニケーション能力を高める【DP】。敬語の使い方、メールの書き方を身につけ、話し言葉、書きことばにおける敬語が使いこなせるようにする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
漢字問題集を用い、漢字の学習をする。授業内で漢字小テストを行い、定着度を確認する。授業の進度により課題を科すことがある。

評価方法
授業に対する取り組み・態度・課題の提出　　50%
漢字学習の取り組み・態度・小テストの成績　　30%
学期末のまとめテスト　　20%
課題ごとに授業中に評価基準、内容について解説し、質問を受け付ける。

教科書	参考図書
『実践　日本語表現　短大生・大学1年生のためのハンドブック』ナカニシヤ出版 『漢検　10日間でできる練習問題　準2級』日本漢字能力検定協会	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
講義ばかりではなく、演習形式をとることもあるので、欠席はほかのメンバーの迷惑になる。やむを得ず欠席した場合には、翌週までに自学して、授業内容を補っておくこと。

01	ガイダンス　メールの書き方１　メールの書き方のルール
02	自己紹介、メールの書き方２　実践
03	発表１　テーマを決める・調査の方法を学ぶ・詳しく調べる
04	発表２　まとめる・レジュメを作る
05	発表３　発表の仕方を学ぶ
06	発表４　発表する　　批評する
07	文献調査　図書館の利用法

08	敬語の用法　尊敬語 学籍番号 氏名 （１）自分の長所・短所について述べなさい。 （２）これまで、頑張って取り組んできたことを紹介しなさい。 （３）将来の展望について書きなさい。 敬語1　尊敬語
09	敬語の用法　謙譲語 学籍番号 氏名 （１）自分の長所・短所について述べなさい。 （２）これまで、頑張って取り組んできたことを紹介しなさい。 （３）将来の展望について書きなさい。 敬語2　謙譲語
10	あらまし読み１
11	あらまし読み２
12	引用の仕方を学ぶ
13	意見レポート1　意見レポートとは
14	意見レポート２　テーマに沿って意見文を作成する
15	意見レポート３　まとめ
16	なし

2022年度シラバス

科目名:日本語表現Ⅱ	担当者:松浦 照子・鬼頭 祐太	開講学科等	桜大共通
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
大学生として必要な日本語能力、社会人として求められる能力として、日本語の4領域（話す・聞く・書く・読む）について学び、4領域の力を高める。今学期はグループディスカッションを通して、多様な対話力を磨く。さらに、自分の意見を客観的に見直し、第3者にもわかりやすく説明する能力を養う。クラスメイトとの対話を行い、学習を深める。

授業の到達目標
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
○統合的な学習経験と創造的思考力
新聞などのメディアを通して時事問題に対応する知識と課題発見能力を身につける【DP】。また図書館を利用しての文献検索を正しく行えるようにする。内容を理解し、資料を作成し、発表することができるようになる。【DP】根拠を示して客観的な意見文が書けるようにする【DP】。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
漢字問題集を用い、漢字学習をする。授業内で漢字小テストを行い、定着度を確認する。
資料検索により意見文を作成するため、授業以外の時間を使って文献の検索、理解をする必要がある。

評価方法
授業に対する取り組み・態度・課題の提出　　50%
漢字学習の取り組み・態度・小テストの成績　30%
学期末のまとめ試験
授業中に、課題ごとの到達目標を明示し、評価内容を解説するとともに、質問も受け付ける。

教科書	参考図書
『実践　日本語表現　短大生・大学1年生のためのハンドブック』ナカニシヤ出版 『漢検　10日間でできる練習問題　準2級』日本漢字能力検定協会	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業中はもちろん、授業時間以外にも文献を読む時間を求められる。専門書を対象にするので、用語の理解にも時間を要することが予想される。

01	グループディスカッション１　話し合いの型
02	グループディスカッション２　意見発表型
03	グループディスカッション３　クループワーク型
04	グループディスカッション４　課題解決型
05	グループディスカッション５　成果発表
06	意見レポート作成１　意見レポートの見直し
07	意見レポート作成２　再調査
08	意見レポート作成３　文章の構成
09	意見レポート作成４　推敲の仕方
10	意見を発表する　時事問題を知る
11	意見を発表する　発表テーマを考える
12	意見を発表する　文献調査
13	意見を発表する　レジュメ作成
14	意見を発表する　発表会１
15	意見を発表する　発表会２
16	なし

2022年度シラバス

科目名:基礎演習Ⅰ	担当者:井川 恵理・小林愛明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:PCを持参すること。		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
学芸学部のディプロマポリシーにある「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」といった「社会人基礎力」を育成する科目である。[DP] その育成のため、大学での学び方、自主学修、グループワーク、情報収集、情報提供や思考の表現また、ICTを用いたコミュニケーションの方法などを実践的に行う。[AL]

授業の到達目標
①自分の現在の能力を批判的に分析し、大学生活での各自の目標を明確にすることができる。【DP】
②社会人基礎力とは何かを理解し、そのために必要な実践計画（アクションプラン）を設定することができる。【DP】③自主的な学修とグループワークをバランスよく実践することができる。【DP】
④他者とのコミュニケーションにおいて、相手を尊重し、礼儀正しい言葉遣いや様式を用いることができる。【DP】⑤批判的思考ができ、論理的で想像的な発信ができる能力を身につけるために必要な学修をすることができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①各自が設定した目標に向けて秩序ある生活を送る。
②自主的な学修とグループワークをバランスよく実践するため、各自が課題に真摯に取り組み、伝達を適宜行い、協力する。後期に行われる大学祭の準備は前期に始まるため、皆が協力して考え、取り組む。
③国内外の社会に対して関心をもち、新聞・TV・ウェブサイト上の各種ニュース、書籍からの情報を常に収集し、考察する習慣を身につける。
④各種委員や係など、各自の分担を自覚し、常に授業で皆に情報提供や意見交換ができるよう準備する。
⑤上記の準備・事後学修のため、週２時

評価方法
授業における取り組み（自主的取り組み、グループワークでの協力、「社会人基礎力シート」）(55%)、「英語と私」感想シート（10%)、キャリアデザインシート（10%）、CRP（10%）、フィールドワークシート（10%）、ESC利用シート（5%）フィードバックは、Moodle上の提出物については同サイト上でフィードバック、紙媒体については直接のコメント・評価を付記することで行う。

教科書 プリント資料配布。	参考図書 授業内で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①大学生活の基本となる授業なので、積極的に取り組む。
②連絡先　井川: ikawa@ohkagakuen-u.ac.jp（研究室7310）、小林:（授業内で紹介）
③オフィスアワー　授業で公開する。

01	基礎演習I のガイダンス（フレッシュマンセミナーの振り返り、シラバス確認、各種活動担当の説明） 学芸学部、大学全体の行事、その意義、役割説明
02	桜花学園大学の歴史と目指す女性
03	第二週の振り返り、学芸学部、大学全体の行事、その意義、役割分担
04	「英語と私（なぜ日本人は英語が苦手なのか）」（学長の講話）＜「英語と私」感想シート提出＞
05	「私の大学生活設計」（概論：大学生の基礎知識・情報「社会人基礎力とは何か」） 「私の大学生活設計」（概論：大学生の基礎知識・情報「社会人基礎力とは何か」）
06	「私の大学生活設計」（キャリアデザインシート　作成
07	「私の大学生活設計」（キャリアデザインシート　発表）
08	ICTを用いたコミュニケーション（PC等を用いてメール連絡をする方法）
09	ICTを用いた書類作成と保存（PCで整理整頓）
10	大学での学修方法（レポートの書き方）説明
11	世界を知るにはまず地元から　地域との連携（フィールドワーク事前学修）、大学祭（名桜祭）とは
12	世界を知るにはまず地元から　地域との連携（有松地区）フィールドワーク
13	世界を知るにはまず地元から　地域との連携（振り返り　グループ・ディスカッション）、大学祭準備会議
14	社会人基礎力シートまとめ（これまでのシートをグラフにして自分の強み、弱みを分析しよう）
15	「基礎演習I」と前期の大学生活を振り返ろう＜Course Reflection の作成・提出>
16	なし

2022年度シラバス

科目名:基礎演習Ⅰ	担当者:田端 智美・髙橋 一郎・石山 英明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:PC持参		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本演習を通して、学び合う仲間と協力し、積極的に教育・保育に関する知識や技能を習得して国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と基礎知識を身につける。また保育者としての実践力・応用力（子どもの前で話す・演じる・教える）、発表する力（自分の意見を他者に伝える、堂々と発表する）が身につくことを目標とする。

授業の到達目標
仲間と交流・協力することを軸として次の3つの力を身につける。 (DP)① 保育者としての基礎力（記述する・ICTスキル）② 保育者としての実践力(子どもの前で話す・演じる・教える)③ 発表する力(自分の意見を他人に伝える・人前で堂々と発表する)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業・MOODLE・メール等で指示を行う積極的に絵本の読み聞かせや手遊びなどを練習し、保育実践力を高めてください

評価方法
提出課題の内容(50点)、発表を含んだ授業への参加態度(50点)として合計100点満点で評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書 特になし	参考図書 幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、保育所保育指針

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段　代表tabata@ohkagakuen-u.ac.jp 積極的に授業に参加してください。

01	前期の学びについてのオリエンテーション 2🄻ポートの書き方講座・ポートフォリオについて 3🄻ポートの書き方実践・GWの課題 4🄻ポート(GW課題)の発表 5🅁ランティア講座・キャリアデザイン講座 6🄿育の技術を磨く１（制作遊びと模擬保育） 7🄿育の技術を磨く２（制作遊び英語ver.と模擬保育） 8🄿育の技術を磨く３（音楽遊びの模擬保育） 9🄿育の技術を磨く４（音楽遊び英語ver.の模擬保育） 10🄿育の技術を磨く５（ダンス遊びの模擬保育） 11🄿育の技術を磨く
02	芸術鑑賞とレポートの書き方
03	桜花学園の歴史と目指す女性
04	ボランティアと私のキャリアデザイン・文献を読み、レポートを作成しよう
05	PROGテスト
06	海外の生活・海外インターンシップに向けて
07	ニュージーランドのティ・ファリキについて学ぼう
08	PROGテスト返却と強みを生かす生き方研究
09	学科運営行事
10	日本の伝統文化研究
11	日本の伝統文化を英語で紹介するために①(日本文化を調べる)
12	日本の伝統文化を英語で紹介するために②（発表の準備）
13	日本の伝統文化を英語で紹介する発表会①（前半グループ） (AL)
14	日本の伝統文化を英語で紹介する発表会②（後半グループ） (AL)
15	夏休みの課題と後期に向けて
16	なし

科目名:基礎演習Ⅰ	担当者:古畑 淳・上村 晶・小柳津 和博・松永 康史・五十嵐 睦美・寺田 泰人・福島 耕平・小原 倫子・嶋守 さやか・内田 将平	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:パソコン使用		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業は大学での学習の基礎固めという位置づけで、アカデミックスキルズを中心に学んでいきます。特に、今後の学習の中で必要となる、文献・資料検索の方法、レジュメ・レポートの作成についてグループワーク等を取り入れながら学習していきます。また、自分がまとめたレジュメやレポートの発表を通して、自己発信力のトレーニングも行っていきます。さらに、授業内ではPCを使用しながら、タスクをこなしていくことで、基本的なICTスキルを身につけていきます。ボランティア・体験学習の意義を知り、実際に計画・体験します。

授業の到達目標
　各人の学びの成果を発表し、ゼミメンバーの「考え方」に傾聴し共有すること、能動的に学習すること。ゼミメンバーと交流・協力することを軸として、①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポートの作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する。④体験学習での気づきを交流し学びを深める。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業、Moodle、メール等で毎回指示をする。

評価方法
提出課題の内容60%、発表、討論の内容を含んだ授業への参加態度40%
各課題の後でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
課題文献については授業内で指示する。	授業時に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
この科目は4年間の学びの基礎作りをする重要な科目であるため、積極的な取り組みをするよう心がけてください。

01	ガイダンス
02	大学での学びとは
03	桜花学園の歴史と目指す女性
04	図書館の利用について
05	ボランティア活動について
06	スペシャリストについて①
07	スペシャリストについて②
08	スペシャリストについて③
09	スペシャリストについて④
10	文献検索、レポートの書き方について
11	資料輪読とレジュメの作成①
12	レポート作成・ゼミごとの学び
13	レポートの発表・意見交換
14	PROGテスト
15	学びのカルテについて・前期のまとめ
16	

科目名:基礎演習Ⅱ	担当者:井川 恵理・小林愛明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:PCを持参すること。		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
学芸学部のディプロマポリシーにある「修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」といった「社会人基礎力」を育成する科目である。[DP] その育成のため、大学での学び方、自主学修、グループワーク、情報収集、情報提供や思考の表現また、ICTを用いたコミュニケーションの方法などを実践的に行う。

授業の到達目標
①自分の現在の能力を批判的に分析し、大学生活での各自の目標を明確にすることができる。【DP】
②社会人基礎力とは何かを理解し、そのために必要な実践計画（アクションプラン）を設定することができる。【DP】③自主的な学修とグループワークをバランスよく実践することができる。【DP】
④他者とのコミュニケーションにおいて、相手を尊重し、礼儀正しい言葉遣いや様式を用いることができる。【DP】⑤批判的思考ができ、論理的で想像的な発信ができる能力を身につけるために必要な学修をすることができる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
①各自が設定した目標に向けて秩序ある生活を送る。
②自主的な学修とグループワークをバランスよく実践するため、各自が課題に真摯に取り組み、伝達を適宜行い、協力する。大学祭等、さまざまな行事の準備や運営、事後の振り返りまで、皆が協力して考え、取り組む。
③国内外の社会に対して関心をもち、新聞・TV・ウェブサイト上の各種ニュース、書籍からの情報を常に収集し、考察する習慣を身につける。
④各種委員や係など、各自の分担を自覚し、常に授業で皆に情報提供や意見交換ができるよう準備する。
⑤上記の準備・事後学修の

評価方法
授業における取り組み（自主的取り組み、グループワークでの協力、「社会人基礎力シート」）（50%)、夏休みの課題レポート（10%）、Semester Learning Portfolio（10%)、名桜祭参加シート（10%）、Course Reflection Portfolio（10%)、学期末TOEIC L&R IP受験（5%） 、ESC利用シート（5%）フィードバックの方法：紙媒体の提出物は直接のコメント記入、Moodle上の提出物には同サイトにて評価コメントを記す。

教科書	参考図書
プリント資料配布。	授業内で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①大学生活の基本となる授業なので、積極的に取り組む。
②連絡先： 井川：ikawa@ohkagakuen-u.ac.jp、研究室7310、小林：（授業にて紹介）
③オフィスアワー 授業で公開する。

01	基礎演習IIのガイダンス（シラバス確認、各種行事や活動の確認、「社会人基礎力」、夏休み課題報告）
02	夏休み課題報告会、Semester Learning Portfolioとは、大学祭プロジェクトの目的
03	Semester Learning Portfolio 準備、大学祭プロジェクト計画作り
04	Semester Learning Portfolio 完成、報告会
05	大学祭プロジェクト準備
06	大学祭プロジェクト準備
07	大学祭プロジェクト直前確認
08	大学祭プロジェクト振り返り、ディベートにチャレンジ!（ディベートとは）
09	ディベートにチャレンジ！社会を知る （1） テーマを設定しよう
10	ディベートにチャレンジ！社会を知る（2）図書館を活用してデータを集めよう
11	ディベートにチャレンジ！社会を知る（3）賛成・反対、両方の意見を準備しよう
12	ディベートにチャレンジ！社会を知る（4）立場の違いを理解して実践
13	社会人基礎力シートのまとめ グラフを作って自分の強み、弱みを理解しよう
14	振り返り（Course Reflection 準備）
15	TOEIC Listening & Reading IP受験
16	基礎演習と社会人基礎力

2022年度シラバス

科目名:基礎演習Ⅱ	担当者:田端 智美・髙橋 一郎・石山 英明	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本演習を通して、学び合う仲間と協力し、積極的に教育・保育に関する知識や技能を習得して国際社会で活躍するために必要な幅広い視野と基礎知識を身につける。また保育者としての実践力・応用力（子どもの前で話す・演じる・教える）、発表する力（自分の意見を他者に伝える、堂々と発表する）が身につくことを目標とする。

授業の到達目標
友人と交流・協力することを軸として次の3つの力を身につける。 (DP)① 保育者としての基礎力・応用力（観察する・記述する・ICTスキル）② 保育者としての実践力・応用力(子どもの前で話す・演じる・教える)③ 発表する力(自分の意見を、PPを使って他人に伝える・人前で堂々と発表する)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業・MOODLE・メール等で指示を行う

評価方法
提出課題の内容(50点)、発表を含んだ授業への参加態度(50点)として合計100点満点で評価する。フィードバックについて授業シートを記入

教科書 特になし	参考図書 授業内で指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段　代表tabata@ohkagakuen-u.ac.jp 積極的に授業に参加してください。

01	後期の学びについてのオリエンテーション
02	海外インターンシップ報告①（第一グループ）
03	海外インターンシップ報告②（第二グループ）
04	チームで活動することの意義について
05	社会人基礎力を身に付ける①（思考力・行動力を中心に）
06	社会人基礎力を身に付ける②（コミュニケーション力を中心に）
07	社会人基礎力を身に付ける③（３つのチカラを合わせるグループワーク）
08	大学祭の反省と今後の課題、論文を読もう①（論文の検索方法）
09	論文を読もう②（輪読）
10	海外の子どもたちに伝えたい日本文化について
11	海外の子ども達に日本の文化を紹介するために 海外の子ども達に日本文化を紹介するために
12	海外の子ども達に日本の文化を紹介する発表会①（前半グループ） (AL)
13	海外の子ども達に日本の文化を紹介する発表会②（後半グループ） (AL) 海外の子ども達に日本文化を紹介する発表会２（後半グループ発表）
14	国内外の子ども達と季節のイベントについて
15	後期および1年間のまとめ
16	なし

科目名:基礎演習Ⅱ	担当者:古畑 淳・上村 晶・森川 拓也・小柳津 和博・松永 康史・五十嵐 睦美・堀 由里・福島 耕平・小原 倫子	開講学科等	桜大共通
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:パソコン使用		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業は「基礎演習Ⅰ」に引き続き、大学での学習の基礎固めという位置づけで、アカデミックスキルズを中心に学んでいきます。特に、今後の学習の中で必要となる、文献・資料の検索方法、レジュメ・レポートの作成についてグループワーク等を取り入れながら学習します。また、自分がまとめたレジュメやレポートの発表を通して、自己発信力のトレーニングも行っていきます。さらに、授業内ではPCを使用しながらタスクをこなしていくことで、基本的なICTスキルを身につけていきます。

授業の到達目標
学びの成果を発表し、「考え方」に傾聴し共有すること、能動的に学習すること。ゼミメンバーと交流・協力することを軸として、①保育者基礎力（観察する力、洞察する力、記述する力）、②研究法（文献資料の検索・読み方・レポートの作成）、③ICTスキル（PCを用いて学習を展開するスキル）の基礎を獲得する。④体験学習での気づきを交流し学びを深める。
[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎統合的な学習経験と創造的思考力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業、Moodle、メール等で毎回指示をする。

評価方法
提出課題の内容60%、発表、討論の内容を含んだ授業への参加態度40%
各課題の後でフィードバックを行う。

教科書	参考図書
課題文献については授業内で指示する。	授業時に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
冬休み課題として「子ども発見シート」を書きます。

01	学びのカルテの振り返り、学外体験の報告、PROGテストの活用について
02	子育て支援室訪問（後期に1回）
03	子育て支援室の訪問計画等
04	文献輪読・レジュメ作成①
05	文献輪読・レジュメ作成②
06	文献輪読・レジュメ作成③
07	ゼミ独自の学び（大学祭に向けて）
08	文献輪読・レポート作成①
09	文献輪読・レポート作成②
10	レポートの発表と相互検討①
11	レポートの発表と相互検討②
12	子ども発見シートの作成について、ゼミ独自の学び
13	スペシャリスト選択に向けたオムニバス講義
14	子ども発見シートの発表と意見交換
15	後期の振り返り、2年生に向けて
16	